

CSR
報告書

2009

グンゼグループ

会社概要 (2009年3月31日現在)

創業 明治29年(1896年)8月10日

代表者 代表取締役社長 平田 弘

資本金 26,071百万円

従業員数 2,269名(単体)
9,041名(連結合計)

上場証券取引所 東京証券取引所、大阪証券取引所

事業所 本店

〒623-8511
京都府綾部市青野町膳所1番地
TEL(0773)42-3181 FAX(0773)42-3193

大阪本社

〒530-0001
大阪市北区梅田1丁目8番17号大阪第一生命ビル
TEL(06)6348-1313 FAX(06)6348-4815

東京支社

〒103-0027
東京都中央区日本橋2丁目10番4号
グンゼ日本橋ビル
TEL(03)3276-8710 FAX(03)3276-8729

連結対象会社

▶ アパレル事業

東北グンゼ(株)、出雲アパレル(有)
福知山アパレル(有)、公冠グンゼ(株)
Gunze (Vietnam) Co.,Ltd.、Thai Gunze Co.,Ltd.
山東冠世針織有限公司
倉吉グンゼ(株)、大連坤姿時装有限公司
九州グンゼ(株)、兵庫グンゼ(株)
P.T.Gunze Socks Indonesia
加賀グンゼ(株)、津山グンゼ(株)、中央繊維資材(株)
P.T.Gunze Indonesia、上海都是通虹纖維有限公司
都是(上海)国際貿易有限公司
(株)ルフラン、グンゼ物流(株)、(株)グンゼオフィスサービス

▶ 機能ソリューション事業

福島プラスチック(株)
Gunze Plastics & Engineering Corporation of Europe N.V.
Gunze Plastics & Engineering Corporation of America
グンゼ包装システム(株)、上海都是新包装有限公司
都是高分子工業(株)、上海都是新塑材有限公司
エルマ(株)
Gunze Electronics U.S.A. Corp.
GGI Technology Limited.、Guanzhi Holdings Limited.
Dongguan Guanzhi Electronics Limited.
綾部エンブラ(株)

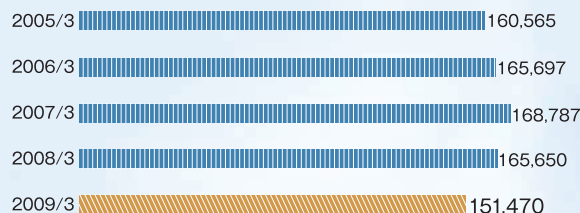
▶ ライフクリエイト事業

グンゼ開発(株)、(株)つかしんタウンクリエイト
グンゼエンジニアリング(株)
グンゼグリーン(株)、グンゼスポーツ(株)

[連結業績]

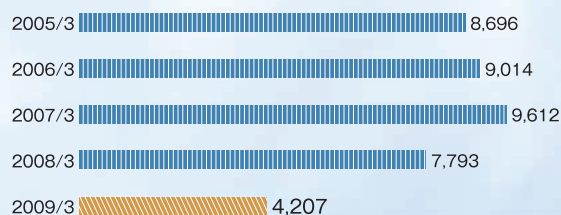
▶ 売上高推移

(単位:百万円)



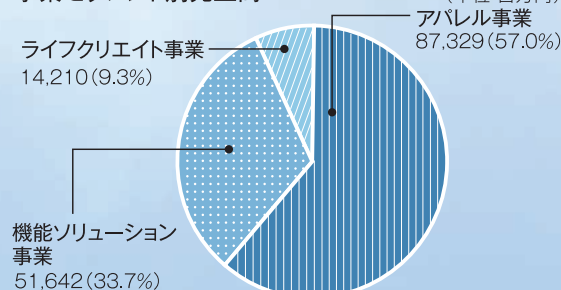
▶ 営業利益推移

(単位:百万円)



▶ 事業セグメント別売上高

(単位:百万円)



()は構成比を表す
上記セグメント別売上高は、セグメント間で発生した売上高を調整する前の数値です

▶ アパレル事業(消費財)

- メンズインナー ●キッズインナー ●レディスインナー ●ストッキング ●ソックス
- ハウスカジュアル(ホームウェア、ナイトウェア)
- 繊維資材(工業用ミシン糸、産業資材)
- その他(婦人服、テキスタイル、絹織物)

▶ 機能ソリューション事業(生産財)

- プラスチックフィルム(ペットボトル用熱収縮フィルムなど)
- エンジニアリングプラスチック(複写機・プリンターの転写ベルトなど)
- 電子部品(タッチパネルなど)
- メディカル材料(生体内吸収性縫合糸、人工皮膚、生体内吸収性骨接合材など)
- メカトロ(印刷周辺省力機器、高速製袋包装機など)

▶ ライフクリエイト事業(サービス)

- デベロッパ(商業施設の運営) ●エステイト(不動産の賃貸など)
- エンジニアリング(省エネ事業など) ●温浴(つかしん天然温泉「湯の華廬」)
- フィットネスクラブの運営
- グリーン事業(樹木・花卉販売など)

〈編集にあたって〉

●目的

本報告書はグンゼグループのCSR活動の取り組み内容を開示し、ステークホルダーの皆さまからご意見をいただき、より一層の取り組み向上につなげることを目的に発行しています。

●報告対象範囲

原則として、実績データは2008年度(2008年4月1日～2009年3月31日)分を記載していますが、活動内容は一部上記期間以前もしくは以後のものを含んでいます。

●対象範囲

対象範囲はグンゼ株式会社と国内外の子会社(非連結含む62社)を対象としています。

●参考になっているガイドライン

GRI(Global Reporting Initiative)サステナビリティ・レポート・ガイドライン 第3版
環境省「環境報告ガイドライン 2002年版」、「環境会計ガイドライン 2005年版」

●2008年度にいただいた以下のアンケート結果をもとに、

幅広い読者の皆さまにCSRの取り組みをよりご理解いただけるよう心がけました。

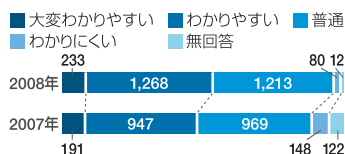
「グンゼCSR報告書」2008 アンケート結果

アンケートは全てのCSR報告書に添付し配布しましたところ、
2,806名の方から回答をいただきました。ありがとうございました。

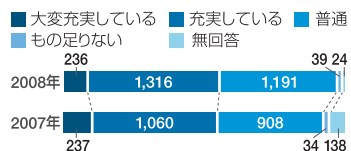
グンゼグループ構成員	2,024	株主・投資家	10
消費者	283	研究者・教育関係者	7
企業のCSR推進担当者	53	行政関係	1
学生	38	その他	141
グンゼグループ退職者	14	無回答	224
取引先	11		

(単位:人)

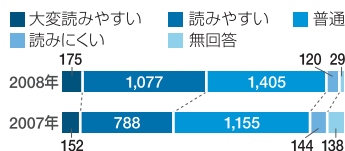
① わかりやすさ (単位:人)



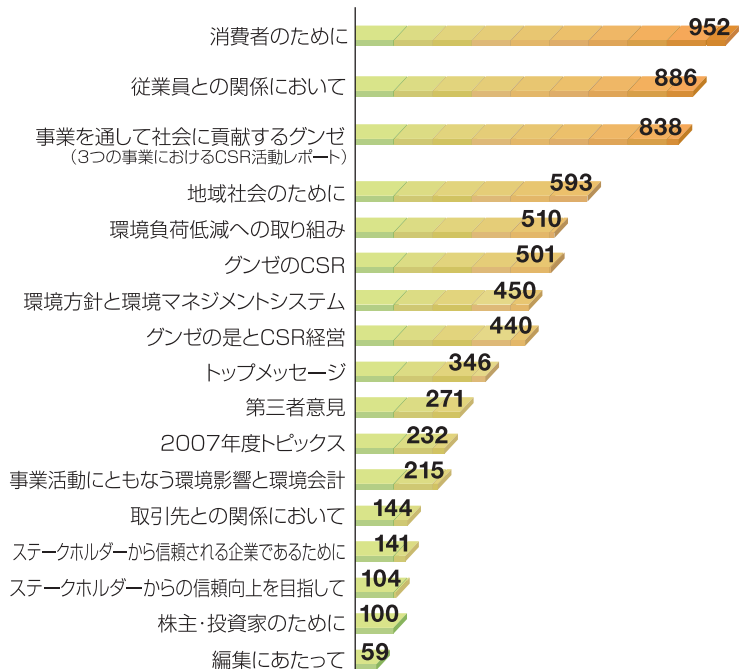
② 内容 (単位:人)



③ 読みやすさ (単位:人)



④ 読者の興味関心 (単位:人)



CSRとは、Corporate Social Responsibility の略。企業の社会的責任と訳されます。

●本報告書はグンゼホームページに公開いたします。(2009年7月以降掲載予定)

URL <http://www.gunze.co.jp>



01 ― 会社概要

02 ― 編集にあたって

03 ― トップコミットメント CSR対談

◆特集

07 ― ①事業活動を通じた社会貢献

09 ― ②将来に向けてグンゼの新たな取り組み

11 ― ③CSR活動 2008年REPORT

▶CSRの取り組み

13 ― CSR活動の概要と推進体制

14 ― CSR推進重点実施項目

▶社会性報告

17 ― お客さま満足の向上を目指して

19 ― お取引先さまと公正な取引の徹底と品質・安全性の向上を目指して

20 ― 地域社会貢献活動

23 ― 従業員のために働きがいのある安全な職場づくりの実現

▶環境報告 ―地球環境のために―

25 ― 環境方針と環境マネジメントシステム

27 ― 事業活動にともなう環境影響と環境会計

29 ― 環境負荷低減への取り組み

33 ― 株主・投資家のために

34 ― 第三者意見

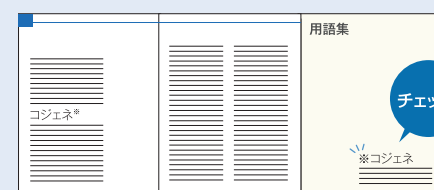
35 ― パフォーマンスデータ集

36 ― 用語集

巻末折り返し部分に、
「パフォーマンスデータ集」と
「用語集」を掲載しております。

●便利な活用法

「用語集」ページを開いたまま、他のページをお読みいただくことができます。



創業の精神を「経糸」に、社会からの期 お客さま満足と企業価値の向上をはか



CEO
Chief Executive Officer
(最高経営責任者)

平田 弘

経糸とは

変えてはならないもの

- 創業の精神
- 三つの章句、三つの躰
- 社是
- グンゼ行動規範

緯糸とは

社会からの期待に応え、積極的に進化させるもの

- 経営戦略
- 事業内容
- システム・仕組みなど
- 商品・サービスなど

「創業の精神」をCSRの原点に、
「不進不存」の徹底で、変化をチャンスに！

〔平田CEO〕

グンゼグループのCSR活動の原点は「創業の精神」※（ページ下に記載）にあります。この基本理念を経糸にCSR経営を実践し、社会に貢献したいと考えています。「不進不存」※を掲げて3年。激変する環境にこそチャンスがあると考え、挑戦する必要があります。

※「不進不存」とは

「最も強いものでもなく、最も賢いものでもなく、変化にもっとも敏感に対応できたものが生き残ることができる」とするダーウィンの進化論にあるように、企業も「進化しなければ、生き残ることができない」ということを意味しています。

グンゼCSRの原点

－創業の精神－

人間尊重と優良品の生産を基礎として、
会社をめぐるすべての関係者との
共存共栄をはかる



執務中の創業者 波多野 鶴吉

◆三つの章句

誠意

一所懸命、これが誠意である。
小事をおろそかにしない。
表裏がない。遅怠がない。
間断がない。約束を違えない。
責任感も勇気もこれより出で、
知恵もここから生まれる。
成功の基礎である。

愛情

思いやりの心である。
相手の身になって考える。
非礼を行わない。よく忍待する。
知恵はここから出て、
人を生かし、事を生かし、
物を生かす。

謙虚

己を空しくして、
他から学ぶとする
精神である。
進歩の母体である。
競争は、きのうの我とする。

◆三つの躰

あいさつ
をする

はきもの
をそろえる

そうじ
をする

待に誠意をもって応えることを「緯糸」に、 るとともに、地球・社会との持続的発展を目指します

【俣山CCSRO】

「不進不存」の実現のためには、環境変化に敏感に反応し、柔軟に対応する人財^{*1}が必要です。CSR推進室が2004年7月に発足以来、CSR講座を幹部から一般従業員まで対話形式で実施するなど、地道な啓発活動を継続しているのは、各々が他人任せでなく、それぞれの立場で当事者となり、グンゼのCSRについて考え、行動につなげるためにほかなりません。これは創業者 波多野鶴吉翁の言葉でもある「善い人が良い糸をつくる」に通じていると思います。



CSR討議 / 経営トップ層



CSR討議 / 新入社員

CSR経営の基本は、ステークホルダーとの
信頼の輪をひろげること。キーワードは「風通し」

【平田CEO】

わたしが経営だけでなく人生においても、大事な指針としているのは「誠意・愛情・謙虚」^{*}の精神です。(※ページ下に三つの章句として記載)「一所懸命の心」「思いやりの心」「他から学ぶ心」は、



CCSRO
Chief Corporate Social
Responsibility Officer
(CSR担当役員)

かせやま
俣山 滋

◆ 社是

1. 優良品の提供に徹し社会に貢献する
1. 誠意をつくり信頼の輪をひろげる
1. 若さと創意をいかし世界の一流をめざす

創業者 波多野鶴吉は京都府何鹿郡(現在の綾部市)の地場産業であった蚕糸業の振興を通じて、地域社会との持続可能な共存共栄をはかろうと、1896年(明治29年)、「郡是製絲株式会社」を興しました。社名の「郡是」とは、この「何鹿郡」の「是」(方針)に由来し、創業者の強い思いが込められています。消費者、取引先、地域社会、構成員、株主からの期待に事業活動で誠実にお応えし、地球環境・社会との持続的発展を目指す。それは、わたしたちの社会的責任そのものです。

◆ グンゼ行動規範

- 〈第1章〉グンゼは、企業活動を通じて社会貢献に努め、企業市民としての責任を果たします
- 〈第2章〉グンゼは、世界に通じる公正なルールにのっとり活動します
- 〈第3章〉私たちは、なにごとにも積極果敢に挑戦するとともに、良識をもって行動します

CSR 基本方針

企業理念、社是、グンゼ行動規範を経糸に、取り巻くすべての利害関係者からの要請・期待に敏感に、柔軟に、誠意をもって応え、公正で誠実な企業活動を推進し、地球・社会と企業の持続的発展を目指し、社会的責任を果たします。

詳細は次ページへ

仕事だけでなく、人間として成長するためにも大事なことであり、この実践により「信頼の輪」が広がります。変化し続ける社会が何を求めているかを敏感に察



ステークホルダーミーティング

知し、迅速に対応するためには、ステークホルダーとの双方向の対話が不可欠です。これがなければ企業の論理で事業活動が行われ、結果としてステークホルダーからの期待に応えることができません。事業活動の全てのプロセスに「創業の精神」や「誠意・愛情・謙虚」の理念が前提になっているからこそ、今日のグンゼグループがあることを強く認識して、構成員一人ひとりの意識と行動を見直し、向上させていく必要があります。

【梶山CCSRO】

2008年8月に組織改正したコーポレートコミュニケーション部の重要機能としてCSR推進室と広報IR室を位置づけ、社内外の多様な



ステークホルダーとの対話を重視したCSR活動を展開しています。また、双方向のコミュニケーションのためには「社内外の風通し」の良さが鍵をにぎります。やらなくてはいけないこと、やってはいいこと、やった方がよいこと、いずれも風通しが良くなければ徹底できません。そこで、「風通し改善」をCSR活動の重点実施事項として展開しています。

社会の課題に事業活動を通じ、 守りと攻めのCSRで柔軟に応える

【平田CEO】

これまでは、ある意味「守りのCSR」が活動の中心になっていましたが、積極的な社会貢献を意識した「攻めのCSR」を強化し、ステークホルダーとの共存共栄をはかる必要があります。

特に、「環境」「健康」「高齢」「快適」「効率」の5つの「K」をキーワードに、グンゼグループの英智を結集し、いかにステークホルダーからの期待に応えていくかが重要と考えます。

特に環境については地球規模の気候変動が問題になっています。地球温暖化の影響と言われる大型台風や大洪水など、自然災害の増大は、人的被害や食糧危機をもたらす世界的な課題であり、企業としても事業活動を通じた「守りと攻めのCSR」により課題に取り組む必要があります。

【梶山CCSRO】

確かに取り組むべき課題は山積しています。内部統制の運用強化をはじめ、月に1度コンプライアンス情報交換会を実施するなど、リスクマネジメントを行っています。これはあくまでも守りのCSRであり、「これで十分」ということはありません。

消費者のために >>> P17~18へ

常に消費者の立場に立って考え、優良な商品・サービスの提供に徹し、「売って喜び買って喜ぶ」を実践する
品質を第一義に、安全、安心、快適、満足を追求し、環境と人にやさしい製品、サービスの開発、提供で持続可能な社会の実現のために努力する

取引先との関係において >>> P19へ

共存共栄の実現を目指す

独占禁止法、下請法をはじめとする関連法令およびその精神を順守し、公正かつ自由な取引を行う

公正さを疑われるような贈答や接待をしたり、受けたりしない

雇用における差別禁止、強制労働の禁止、児童労働の禁止を求める

CSR基本方針

地域社会のために >>> P20~22へ

積極的に社会、地域活動に参加し、社会との友好な関係を築き、地球・社会との持続可能性を目指す

環境問題への対応を、経営の重要課題のひとつと捉え、アクションプラン（環境行動計画）を策定し、目標を定め、積極的な地球環境問題への貢献と企業の成長の両立を目指していますが、生産・サービス活動において、目標をクリアできていない実態があり、改善途上にあります。



コンプライアンス情報交換会

今後は製品の開発段階から見直し、事業活動における環境負荷の低



フィルム型色素増感太陽電池

減活動を強化するとともに、「攻めのCSR」としてさらなる環境配慮型の製品やクリーンエネルギーの開発、省エネルギーサービスの提供などにも注力していきたいと考えています。

今回の特集に掲載している「フィルム型色素増感太陽電池」はそののひとつです。事業化にはまだ時間がかかりそうですが、社会的問題を事業活動で解決する「夢のたまご」が、いくつか生まれています。

「不進不存」は多様性が鍵になる

【平田CEO】

蚕糸業で創業してから113年、わたしたちは今、幾多の変化や困難を乗り越えて多様な事業を展開しています。「不進不存」は、まさに多

様な価値観、視点、考え方を結集し変化に挑戦することで、はじめて実現できます。この多様性をキーワードに考えると、「ワークライフバランス」、「女性の活躍推進」、「海外会社従業員の活躍推進」などが重要な取り組みになります。関連制度は整備されてきていますが、運用、結果においてはまだまだ不十分であると認識しており、さらなる充実、強化をはかる必要があります。

「不進不存」を合言葉に、これまでの仕組みや価値観を脱皮・進化させ、再成長するために構成員が一丸となり、ステークホルダーからの期待に柔軟に応え、社会的責任を果たしていくことで、信頼され成長し続けるグンゼグループを実現する必要があります。



多様な価値観、視点、考え方を結集し、CSRを推進する



グンゼCSR基本方針に基づき地球環境を含めたグンゼを取り巻くステークホルダーに対しさまざまな取り組みを行っています
17ページからステークホルダーごとの取り組みについてご紹介します



株主・投資家のために >>> P33へ

CSR推進を通じ企業の信頼を高める
企業情報を積極的かつ公正に開示し、その信頼に応える



従業員との関係において >>> P23~24へ

雇用および処遇における差別を行わず、機会の均等をはかる
事業活動に関わる全ての人の人権を尊重し、強制労働・児童労働は行わない
従業員が、適材適所、多様性を発揮できる能力開発を推進し、社会に貢献できる人材を育成する
従業員が自らの意思により労働組合を結成する結社の自由および集団で交渉する権利を、法律で禁止されていない限り尊重する



地球環境のために >>> P25~32へ

事業活動の全過程において地球環境保護、CO₂削減に積極的に取り組む
事業活動を通じた環境配慮型製品・サービスの提供を通じて、環境にやさしい社会の実現に貢献する

地球と暮らしに貢献するグンゼの事業

天然素材100%の生糸事業から、アパレル事業へ

そして、これまで培ってきた技術を活かし、さまざまな事業が育っています

わたしたちは、人々の暮らしを支える事業を展開し、「安全・安心・快適」をキーワードに社会に貢献しています

○ アパレル事業 [消費財]

地球と人にやさしい製品で安心・快適・満足をお届けします

環境

人に
やさしい

「綿100%、白さ長持ち、消臭力、
水だけ洗濯」で下着の新基準
を実現

〈アパレルカンパニー〉



▶ NEXTRA-COTTONグループ (THE GUNZEなど)

環境

肌着でチームマイナス6%
暑い日はひんやり、
寒い日はあたたかく

〈アパレルカンパニー〉



▶ Cool Balance



▶ HOTMAGIC

人に
やさしい

着やすく、脱ぎやすい
着替えらくらく肌着

〈アパレルカンパニー〉



▶ 着替えらくらく肌着

環境

人に
やさしい

オーガニックコットンの
パジャマ

〈アパレルカンパニー〉



▶ ナチュラルハーブ

人に
やさしい

動くたびに筋肉へアプロー
チしカロリー消費を促す
マッスルシェイパー

〈アパレルカンパニー〉



▶ マッスルシェイパー

環境

オフィスでも家でも
あたたかく

〈アパレルカンパニー〉



▶ Tuché warm+

環境

1994年、グンゼが日本で初めてペットボトルから
衣料品を開発し誕生したREPET®
制服、Tシャツなどのほか、マイバッグ運動の推進
にも貢献しています

〈アパレルカンパニー〉

▶ REPET®素材でできた
エコバッグ



人に
やさしい

人の安全を守るための重要
部品、エアバッグ・シートベル
トの縫製糸として大手自動車
メーカーに採用されています

〈繊維資材事業部〉

▶ 自動車用エア
バッグ・シート
ベルト専用ミ
シン糸



APPAREL
(Consumer Products)

機能ソリューション事業 [生産財]

身近な生活のなかに、グンゼの技が生きています

環境

大事な中身の品質を保持しながら
環境に配慮したプラスチックフィルム

〈プラスチックカンパニー〉

【ミシン目に注目!】

はがしやすいから、すぐリサイクル!
分別回収には、かかせない機能です

【ココに注目!】

プラスチックトレのごみがでない!
フィルムだけでデリケートな中身を
保持。しかも袋が曇らず中身がすっ
ぎり見えます

▶プラスチック
フィルム

環境

グンゼの高機能プラスチック製品は、OA機器、
産業機械からレジャー用品まで、幅広い用途で
活躍し、省エネルギーに貢献しています

〈エンブラ事業部〉



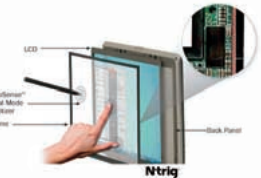
▶各種高機能プラスチック製品

人に
やさしい

ペン、指のどちらでも操作可能な
透過型静電容量方式のタッチパネル

〈電子部品事業部〉

▶タッチパネル



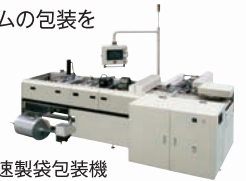
環境

省資源に貢献する薄いフィルムの包装を
可能にした高速製袋包装機*

〈SOZ事業本部〉

※フィルムから自動で製品を
包装する省力機です

▶高速製袋包装機



人に
やさしい

生体内吸収性の素材を用いた
医療用具を製造、販売しています

〈メディカル材料センター〉



縫合糸



骨接合材



人工皮膚



縫合補強材



人工硬膜

人に
やさしい

大豆を紅麹菌で発酵させ焙煎した、
100%自然素材の安心で手軽に食せる
健康補助食品

〈健康食品事業グループ〉



▶グンゼ紅麹 大豆ベニウツト

ライフクリエイト事業 [サービス]

健康増進や省エネ事業などを通じて地球と人の未来を支えます

人に
やさしい

地域の皆さまを元気に
するスポーツプログラ
ムを提供

〈グンゼスポーツ株式会社〉



▶グンゼスポーツクラブ

環境

省エネ対策に有効なESCO事業*や、ヒ
ーターに取り付けて放熱ロスを抑え、省
エネに貢献する断熱エコカバー

〈グンゼエンジニアリング株式会社〉

※ESCO事業
エナジー・サービス・カンパニー (Energy Service Company)
の頭文字を取って「エスコ」と読む。ビルや工場などの建物の省エ
ネ化に必要な「技術」「設備」「人財」「資金」など全てを包括的に
提供するサービス



▶断熱エコカバー

環境

大気汚染物質のひとつ、NO_xや、地球温
暖化の原因CO₂の吸収能力が高い、環
境浄化木エコザクラ* (ヒマラヤザクラ)



〈グンゼグリーン株式会社〉

※エコザクラはグンゼ(株)の
登録商標です

▶エコザクラ®

地域
貢献

源泉掛け流しの本格的なスーパー銭
湯は、人々のいやしと地域のコミュニ
ティに貢献



〈株式会社 つかしん
タウンクリエイト〉

▶天然温泉「湯の華廊」

FUNCTIONAL
SOLUTIONS
(Industrial Products)

創業の
精神

LIFESTYLE CREATIONS
(Services)

グンゼの独自技術を活かして フィルム型色素増感太陽電池を開発中

創業以来、自社の独自技術を進化させながら常に新しいものに挑戦してきたグンゼ。祖業である生糸事業を基に肌着や靴下といった繊維分野から、プラスチック、電子部品などの機能ソリューション分野へと、その事業領域を拡大してまいりました。今、機能ソリューション分野では、「製品の一部ではなく、“最終製品”をグンゼ単独で作り上げることができる、新規分野の研究・開発」が進行しています。そのひとつに、「フィルム型色素増感太陽電池」の開発があります。クリーンエネルギーとして高い注目を集める太陽電池。今回は、特命プロジェクトメンバーの3名にインタビューを実施。

開発背景や従来の太陽電池との違い、今後の展開などについてお伝えいたします。

研究開発センター 特命プロジェクト



マネージャー
北浦 達朗



メンバー
広瀬 貞一



メンバー
岡本 俊紀

グンゼの技術が活かせる環境エネルギー分野として「フィルム型色素増感太陽電池」に着目しました

色素増感太陽電池とは、色素が光を吸収して電子を放電することで発電する新しいタイプの太陽電池。1991年にスイス・ローザンヌ連邦工科大学のGratzel教授らにより提案され、グンゼでは5年ほど前から岐阜大学と共同で研究を開始。「事業活動を通じて社会に貢献する」という企業姿勢において、『環境に配慮したものづくり』はグンゼの重要テーマのひとつ。再生可能エネルギー源のなかでもそのエネルギー量は桁違いに多く、半永久的に生み出される太陽エネルギー。太陽はやがて枯渇する石油や原子力発電に代わる優れたエネルギー源です。わたしたちは、生活に必需の電力を環境を汚さずに発電する太陽電池の開発に照準をあわせました。

フィルム型色素増感太陽電池開発におけるグンゼの強みは、

既存の技術環境にあります。グンゼでは既存のタッチパネルの開発技術が太陽電池に応用でき、基板となる透明電導フィルムを自社で調達できるため、連続生産技術につなげることが可能となります。また、他社には真似できない繊維企業ならではの発想ができる点で、グンゼ独自の製品展開へとビジネスの拡がりを感じます。

色素増感太陽電池は多くの企業が実用化に向けて研究を進めている分野です。わたしたちは、フィルム型色素増感太陽電池を、事業活動を通じて社会貢献できる「たまご」と考え、独自の技術でグンゼならではの太陽電池を作ろうと開発に取り組んでいます。この5年で技術レベルは大幅に向上しています。

写真は、フィルム型色素増感太陽電池をウェアに装着し音楽プレイヤーを充電しています。

●フィルム型色素増感太陽電池 | 将来構想 |

フィルム型色素増感太陽電池の特性(3つのメリットと今後の課題)

メリット

●豊かなデザイン性

軽い・薄い・曲がる・形状自由自在。赤・黄・緑などカラー化も可能

●大幅なコストダウン

材料が安価で製造方法も簡単だから量産が可能。価格はシリコン型の1/3程度

●製造時から環境配慮

製造時の消費エネルギー大幅削減でエネルギーペイバックタイム0.6年(シリコン型より1年以上短縮)

※エネルギーペイバックタイム

製造に必要な投入エネルギーと発電したエネルギーを相殺するまでの期間を示す

課題

●発電効率と耐久性の向上

シリコン型に負けない性能の改善に取り組み、実用化へ
(変換効率) 7%~10%(シリコン型 20%) (耐久性) 5年(シリコン型 30年)

将来、「暮らし・社会・ビジネス」といったさまざまなシーンで、グンゼ独自の製品展開を目指します

街で

○衣服・帽子・鞆などの服飾品に
街を歩きながら、携帯電話やパソコンなどを充電

○携帯電話のカバーに
カラフルなデザインを楽しむことができる



軽くて柔軟な素材でカラー化も可能 多様なシーンでの活躍が期待されています

フィルム型色素増感太陽電池の大きな特長は、形状や色の自由度が高いことです。素材がフィルムなので軽く、曲げて割れません。また、発電のもとで色素なので、カラフルな電池も作ることができます。こうした特性を活かして、従来のシリコン型太陽電池では考えられなかった用途が可能となりました。衣服や鞆、自転車などに組み込めば、運動しながら音楽を聴いたり、携帯電話を充電したりと、持ち運びできる小型発電機に。また、星型など自由な形状に切り抜くこともできるので、室内インテリアや帽子の装飾品など、デザイン性が求められる分野への応用にも注目が集まっています。

フィルム型色素増感太陽電池を取り付けたサンプル



●トレーニングウェア



●温湿度計



●温度計

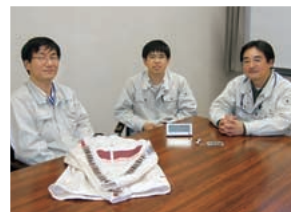
シリコン型太陽電池よりも環境にやさしく、 製造コストも大幅に削減できるというメリットも

もうひとつの大きな特長は、安価に、容易に製造できることです。シリコン型太陽電池は、大掛かりな設備と多量のエネルギーが必要です。しかし、このフィルム型色素増感太陽電池は、材料が安価で、製造に大きな設備が不要、また、低温で加工できるなど、低コスト・低エネルギーでの生産が可能です。価格もシリコン型太陽電池の1/3程度にできると考えています。シリコン型よりも環境にやさしく、安価に量産できるフィルム型色素増感太陽電池は、一般の方にも手に入りやすい身近な太陽電池として、普及拡大に期待が高まります。

まずは「耐久性」の課題に着手 一刻も早い身近な太陽電池の提案を目指します

フィルム型色素増感太陽電池の事業化への課題は、「発電効率」と「耐久性」の向上です。現在わたしたちは、特に耐久性の向上を目的に、封止技術と電解質の開発に取り組んでいます。スパッタリングやコーティング技術といった自社のコア技術を活かし、基板の開発にもさらに力を入れたいと考えています。

この5年を振り返って、フィルム型色素増感太陽電池の実用化は、簡単そうに見えて大変難しいテーマであることを痛感しています。しかし、粘り強く研究を進め、この夢の「たまご」を孵化させ育てていきたい。そう強く念じています。「持続可能な未来のために」とこのテーマを研究する志の篤い数多くの社外の方との交流も、新たな発見につながる大事な機会です。彼らとのディスカッションを通じてさらに夢が膨らみます。何より、持続可能な社会に貢献する新たな太陽電池を開発できること、この取り組みそのものがわたしたちの誇りです。近い将来の実現を目指し、今ある課題をひとつずつクリアにしながら、「身近な太陽電池の開発」にこれから挑戦いたします。



第三者からのご意見

●色素増感太陽電池に期待すること

色素増感太陽電池は、低価格な太陽光発電システムとしてだけでなく、プラスチック製で軽量、色素でカラフルに対応できる特長から、モバイル電子機器など新しい分野への応用も期待されています。グンゼの透明導電フィルム技術は、そうした新産業の創出と、将来のクリーンエネルギーの普及拡大に貢献するでしょう。

〈岐阜大学大学院工学研究科准教授〉吉田 司氏



カラフルで軽くて室内でも発電するという樹脂製色素太陽電池は服装、日常品を彩って、室内電飾、携帯電話、時計などの電源として一般家庭に普及したい。さらに工作キットにより家庭で簡単に作れる太陽電池が実用化されれば、誰でも身近に自然エネルギーを実感でき、太陽光発電の普及に弾みがつきます。

〈NPO法人ワット神戸 アドバイザー〉辻 通夫氏



住宅・室内で

○外壁すべてに

壁面、屋根、車庫、犬小屋など

○窓に

ステンドグラス太陽電池

○ブラインドに

自宅の電化製品の電力源は太陽電池から発電。省エネ・省コスト

○おもちゃに

ラジコンカー

○文具に

スケルトン電卓、スケルトン時計、スケルトン温度計

○車のステッカーに

ラッピングバスの広告ステッカーが太陽電池に。車内灯の電力源に活用

アウトドアで

○アウトドア用品に

アウトドア用品に太陽電池が装着されていれば、海、川、山どこでも発電



職場の風通し改善

2008年は、「職場の風通し改善」を最重要事項と位置づけ、さまざまな活動を推進いたしました
部門CSR委員会で展開した「風通し改善プロジェクト」を「CAP-Do®」のサイクルに沿ってご紹介します

※ グンゼではいわゆる「PDCA」のC (Check:問題発見) から始める、CAP-Doサイクルをまわしています

第1
ステップ

Check ▶ 課題発見 (CSRアンケート結果をもとに)

全社CSR委員会での討議 前年の取り組みを振り返りながら、課題を討議しました

風通し改善のために自部門で 取り組んだこと

- 朝礼後、毎日チーム別に
情報交換を実施した
- 風通し改善について自由に意見交換を
行った
- なんでも話す・話せる会議を実施した
- 全構成員を対象にCSR研修を実施し、
情報・価値の共有を行った
- 小さなことでも「ほめる」を徹底した

部署 (もしくは階層・年代) 別に、風通しが良い、 そうではない部分があればその原因は何か

- 多様な雇用関係および年齢ギャップなどの影響を受け、方針・情報・価値が共有しづらくなっている
- トップダウンとボトムアップをすり合わせるための場が、一方通行になっている

その原因に対し今後、どうアクションを起こすか?

- 各職場の「ネクストリーダー」のみの会議を
1回/月入れる
- リーダーが率先し「三つの躰」を実践する
- 冷静に叱り、感情的にほめる



全社CSR委員会での課題を討議

NEXT
STEP

風通し改善プロジェクトを
企画する!

部門CSR委員会での風通し改善プロジェクト

CASE 1 メディカル材料センターの事例

話し合いやセミナーなどを開催する
ことで、多くの気づきが生まれました

第3
ステップ

Plan-Do

CSRアンケートを検証し、課題を発見

Q わたしの職場はお互いに良いことも悪いことも何でも言い合え、風通しが良い [YES回答率]

2007年 YES **29.2%** → とにかく、風通しについて、
全構成員が話し合おう!

● 話し合ったテーマ

- ① 職場において、どのような状態を
「風通しが良い」といいますか?
- ② ①で定義した風通しは、10点
満点で言うところの何点ですか?
- ③ ②の根拠について話し合っ
てください
- ④ 風通しを良くするために、あな
たにできること、上司にして欲
しいこと、組織的に対応して
欲しいことについてそれぞれ
話し合ってください

● 話し合った内容より抜粋

やっぱり、報・連・相が大事
忙しいからこそ、ちゃんと伝
えることが必要
聞く耳をもって聞いて欲しい!



風通し改善の話し合い

2008年 YES **39.3%** → 風通しを良くするための
話す・聴くセミナーを実施しよう!
前年比アップ!
…しかしまだ半数以下



管理職コース 12名参加



一般コース 65名参加

● 受講アンケートより

- ① 色々な聴き方によって相手の気持ちが変わっていく。話す時も相手の立
場や気持ちを考えて話すということが大事だとわかった
- ② 顔は知っていても話をしたことがなかった方々と話ができて良かった
- ③ 何気なく会話をしている時も相手を思いやることの重要性を感じた
- ④ 自分と年齢が離れている人や、立場が違う人とのコミュニケーションの方
法を今後は学びたい

担当者の声 部門責任者 鶴家所長 / 推進者 川口課員 / 小室課員

普段、横のつながりがあるなかでは問題は起きないが、縦のラ
インでの対話になると、立場や年齢が違うなかで、風通しが悪く
なる傾向がある。今回のプロジェクトを通して、多くの人に気づき
が生まれたと思う。あとは、実践につなげていくことだと思うが、
自らが風を起こすことが大事。気づきのための機会を今後も繰
り返し設け、風通しを良くしていきたい。



プロジェクト後の新たな取り組み

情報・価値の共有ツールとしてCSR
壁新聞を作成し、CSR活動全般につ
いての周知や、コミュニケーションで
困ったこと、ハラスメント事例につい
て、こんなときどうする?のQ&Aコー
ナーを設置。



CSR壁新聞



事例募集のための
「なんでもご意見箱」

これまでの取り組みの流れ

2006年

構成員対象CSRアンケート結果をもとに「重要取り組みテーマ」を設定・取り組む

2007年

「職場の風通し改善」を最重要テーマと位置づけ、「全社CSR委員会」「部門CSR責任者会議」にて討議を重ねる

2008年は?

「職場の風通し改善」PartⅡプロジェクトを各部門CSR委員会で展開する

第2ステップ

Action ▶ 風通し改善プロジェクトの企画

部門CSR責任者会議での討議 大阪大学大学院 青江教授を講師に迎え、プロジェクト骨子を立案しました

① 事前課題に取り組む

- 風通し改善のためのプロジェクト案を作成し、事前に提出する

② 宿題リストを作成する

③ 宿題リストを活用し、「風通し改善プロジェクト」を各班でひとつ選定する

- 評価項目を10項目に絞る[価値(ものさし)を共有する:価値の共有は風通しの第一歩]
- 10項目に絞った評価項目で、宿題リストから風通し改善プロジェクトをひとつ選び、発表する

NEXT STEP

各部門における風通しプロジェクトの展開



大阪大学大学院 青江教授



白熱する部門CSR責任者会議での風通し改善プロジェクト

部門CSR委員会での風通し改善プロジェクト

CASE 2 本工場・綾部本社の事例

ハラスメント防止週間を設置し、取り組みを強化しました

▶ 部門CSR委員会での風通し改善プロジェクト実践

CSRアンケートを検証し、課題を発見

Q わたしの職場はお互いに良いことも悪いことも何でも言い合え、風通しが良い [YES回答率]

2007年 **YES 26.6%** → 2008年 **YES 46.9%** にアップ!

風通しは良くなっている!

風通しが良くなっているのに、ハラスメントが存在するのはなぜ?

Q セクシュアル・ハラスメント被害を受けたことがある

2007年 **YES 4.3%** → 2008年 **YES 6.2%** に増加

Q パワー・ハラスメント被害を受けたことがある

2007年 **YES 3.7%** → 2008年 **YES 11.4%** に増加

まずはこれについて考えてみよう!

ハラスメント防止対策を重点実施事項に決定



本工場・綾部本社の対策会議の様子

プロジェクトメンバーで話し合い、対策を検討

課題対策	具体的取組事項	実施班
1.この取り組みを、みんなにPRしよう!	「ハラスメント防止週間」をPR	A.ポスター作成班
2.ハラスメントの基本について共有しよう!	基本的な規程を周知する	B.セクシュアル・ハラスメント防止規程の紹介班
	一般的な事例紹介で、ハラスメントの基準を紹介する	C.紹介用ハラスメント事例の作成班
	相談担当者への研修で、傾聴技術の向上をはかる	D.ハラスメント相談担当者研修企画班
3.「何か相談ごとがあっても、相談したらどうなるのだろう。」という心配から相談しない	相談対応の仕組みを知らせる	E.相談から解決への流れの紹介班
4.CSRアンケートより、「ハラスメントの被害を受けた」および「ハラスメントが原因で心身に異常をきたしていると感じている」との回答者が増加傾向にある。その「ハラスメント行為の実態」および「心身への影響」について把握しよう	より具体的に把握し、今後の対策につなげる	F.アンケートの作成および実施班



ハラスメント防止週間ポスターでPR



朝礼の時間に事例を紹介

担当者の声 部門責任者 野中マネージャー / 推進リーダー 川端所員

同じ行為でも、人間関係などでハラスメントになるかどうかの判断が変わるため、特にパワー・ハラスメントの事例を共有することは難しい。具体的に内容を把握し、対応するためには、実際の相談につながる事が望ましいが、まずはお互いが率直に話ができるような関係を構築することが大切だと思う。ハラスメント防止週間は終了したが、アンケート結果で見えてきた課題を明らかにし、取り組みを継続する。



CSR活動の概要

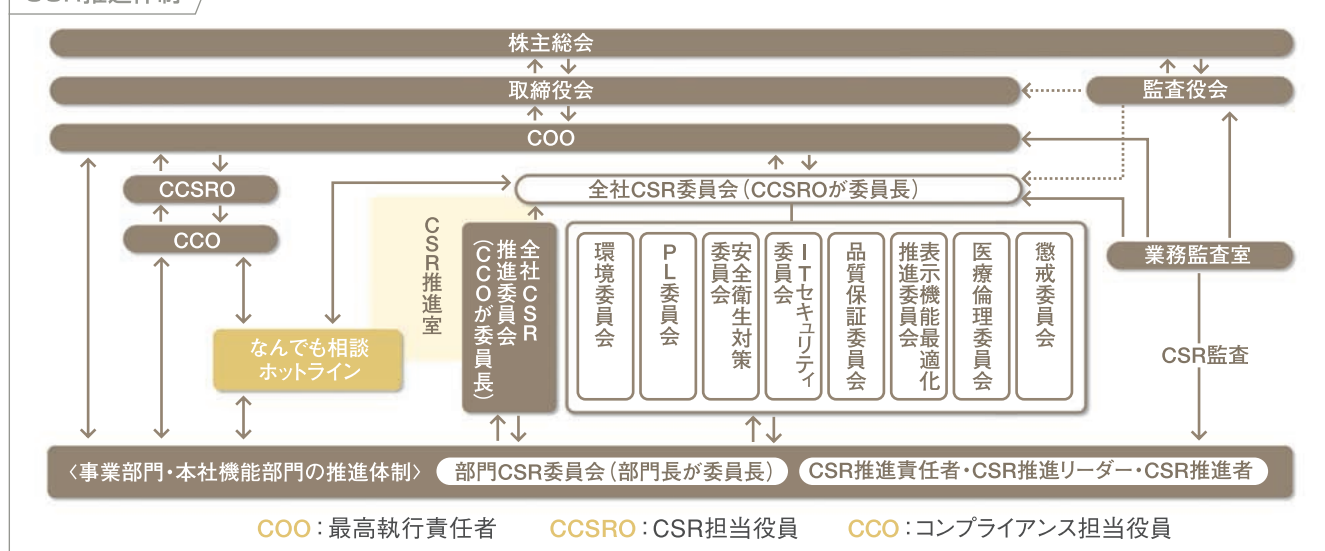
5つの重点項目を設定し、
取り組みを推進しました

事業活動を通じた社会貢献の実践を目指し、5つの重点項目を設定し、展開しています。

2008年度CSR推進重点実施項目

- ① 人権確立社会の実現に寄与し、人間尊重の企業風土を醸成する
- ② 内部統制システム強化によりステークホルダーからの信頼を向上する
- ③ ステークホルダーとのコミュニケーションをはかる
- ④ 社会貢献活動を推進する
- ⑤ 環境経営を推進する

CSR推進体制



TOPICS

内部統制システム強化による財務報告の信頼性確保への取り組み

金融商品取引法に定める財務報告の信頼性を確保するため、「内部統制実施基準」に基づき、CFO^{*}を評価責任者として、当社および連結子会社の内部統制を整備・運用・評価し、その結果を内部統制報告書として公表しております。

^{*}CFO: Chief Financial Officer (財務担当役員)

CSR活動優良事業所表彰

◆受賞事業所

●宮津工場

エネルギーの有効利用等によるCO₂排出量削減、地域と協働した清掃活動や廃食油の回収促進リサイクル、従業員の通勤にはエコバイク（自転車）を推奨するなど、多様な活動を継続的に実施した

●グンゼ物流（株）

作業効率の改善で徹底したムダの排除やリユース等で廃棄物・CO₂削減に成果をあげた。古切手回収やエコキャップ活動、地域の学校と協働し、職業体験や対話活動を行った

●久世工場

廃棄物削減、CO₂削減など環境負荷低減活動に成果をあげた。従業員一丸となって夏のCO₂排出量削減に取り組んだ結果、岡山県知事賞「晴れの国クールビズ賞」を受賞。地域の学校と協働し、職業体験や地域の環境展に出展するなど、地域との対話に努めた

◆表彰の考え方

評価項目	指標	配点	評価項目	指標	配点
1. 労災ほか	事故件数（ゼロの場合）	15点	6. CO ₂ 削減	売上原単位対前年実績	10点
2. 障がい者雇用	法定雇用率	5点	7. 廃棄物発生量	売上原単位前年比	5点
3. 人権啓発活動	人権・ハラスメント研修会開催	5点	8. リサイクル	リサイクル率実績	5点
4. CSR自主監査結果	CSRアンケート	10点	9. 用水使用量	売上原単位前年比	2点
	CSR活動推進評価	20点	10. 低公害車	低公害車数/保有車両数	3点
5. 地域社会への貢献活動	内容、件数または延べ参加時間等を考慮	10点	11. 環境マネジメントシステム運用 (総点検・自主監査結果)	自主監査および自主点検	10点
小計		65点	小計		35点
			合計		100点

CSR推進重点実施項目

人権尊重の職場づくり

人権問題に関する
基本的な考え方

わたしたちはILO（国際労働機関）が定める基本的な労働基準を順守し、創業の精神である「人間尊重」が従業員一人ひとりの実践につながるよう、人権啓発を行い、人権尊重に基づき行動します。

◆◆ 公正採用選考の宣言 ◆◆

グンゼグループは従業員の採用選考にあたって、応募者の基本的な人権を尊重し公正な採用選考を実施します。応募者の適性・能力のみを選考基準とし、人種、民族、社会的身分、門地、本籍、出生地等社会的差別の原因となるおそれのある事項および思想・信条、労働組合への加入状況等の個人情報収集することはいいたしません。

相談体制を整備し、
職場環境の改善に努めています

「なんでも相談ホットライン（公益通報者等窓口）」「ハラスメント相談窓口」「個人情報相談窓口」をCSR推進室に設置し、基本的人権に配慮し、対応しています。

労使による中央ハラスメント相談窓口会を年2回開き、相談内容の把握（相談内容の内訳はDATA参照）と防止策等について協議しています。

各事業所に設置している相談窓口担当者へは毎年1度、傾聴訓練などを実施し、ワンストップで対応できる相談窓口を目指しています。



中央ハラスメント相談窓口



東京相談窓口研修会

社内・社外にて、
さまざまな人権啓発活動に取り組んでいます

グンゼグループは、「大阪同和・人権問題企業連絡会」等の会員企業として、「人権を尊重する企業」を目指し、さまざまな差別の解消に努めています。社内では、同和問題やセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント防止を中心に、研修を実施し、社外人権セミナーにも積極的に参加しています。「部落解放・人権夏期講座」（於：高野山）には、毎年受講者を派遣し、2008年度は25名が参加しました。



新入社員対象 人権研修会

人権週間の取り組みとして、
人権標語の募集を行っています

人権問題を身近な課題として一人ひとりが意識することを目的とし、第60回人権週間（12月4日～12月10日）の取り組みの一環として、人権標語を募集いたしました。

2008年度 人権標語入選作品

●最優秀作品（1点）

わかりますか相手の心 見えますか自分の行動（吉田 綾子）

●優秀作品（5点）

気をつけよう! 上から目線のその言葉（吉田 恵子）

無関心 それがいじめの 第一歩（野瀬 真理）

知らないふり 見ないふり あなたもイジメの仲間です（橋本 典子）

認め合う 気持ちで繋がる 心と心（横田 佳子）

見ないふり 知らないふりも 同じ罪（多和田 明子）

外国人研修生・技能実習生の受け入れを
適正に行っています

研修計画の履行状況や非実務研修の実施の徹底はもちろん、人権に配慮した受け入れを行っています。

〈外国人研修生・技能実習生の受け入れ状況〉

	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
事業所数	5	6	7	5
外国人研修生	20人	32人	39人	24人
外国人技能実習生	16人	16人	16人	26人

VOICE!

部落解放・人権夏期講座 受講者の声

気づきの多い、貴重な時間に

わたしが一番印象に残っているのは、青木新門さんの「いのちのバトンタッチ」という講義です。

青木さんは「第81回米アカデミー賞外国語映画賞」を受賞した「おくりびと」の原作者でもあります。

ひよんな事から葬儀社に勤めはじめ、納棺師の仕事を通して、体験した差別や「いのち」の大切さを、ご自身の言葉で語られたのが心に響きました。それは映画や小説とはまた違う感動でした。

今まで、「人権問題」について深く考えたことがなかったわたしですが、考えさせられることがたくさんあり、気づきの多い貴重な時間となりました。今回、学んだことを活かし、日々の行動につなげていきたいと思います。

コーポレートコミュニケーション部
CSR推進室 藤澤 龍子



内部統制システム強化によりステークホルダーからの信頼を向上する

コンプライアンス情報交換会で
事業リスクにつながる課題の改善に努めました

コンプライアンス情報交換会は、会社法が定める内部統制システムの適切な整備・運用状況を確認する場と位置づけ、審議しています。結果については、全社CSR委員会等で共有するとともに、各部門CSR会議、CSR推進リーダー会議などを通じて事例に基づく討議など再発防止教育を行っています。2008年度は47件（前年度43件）の事例を取り扱いました。



2008年度に協議した主な課題と対応

製品・サービスに対するクレーム関連

店頭回収につながる重大なクレームが1件、PL法にかかわるリスクが8件、不適切な表示クレームが4件発生。クレーム発生を防止する仕組みとしては品質保証委員会（安全性）、品質改善会議（商品改善）、PL委員会（クレーム対応）で対応していましたが、表示に関する施策の最適かつ機動的な運用を目的とした表示機能最適化推進委員会を新設し、迅速な対応と再発防止に努めています。

情報セキュリティリスク関連

会社貸与の携帯電話の紛失が5件発生。いずれもセキュリティを施しており、2次被害は確認されていませんが、個人情報の漏えいにつながりかねないリスクとして対策を講じた上、再発防止に努めています。

火災事故

いずれもぼやですが4件発生。中央安全衛生委員会にて現地の巡視を行い、国内外において緊急点検を行うなど、再発防止のための対策を講じました。

労働時間管理の徹底

厚生労働省による「労働時間管理の適正な把握のために使用者が講ずべき措置に関する基準」に則り、管理体制の構築、運用や、ノー残業デーを設定しその徹底に努めています。

リスク管理体制の見直し

グンゼグループは「内部統制システムの整備に関する基本方針」に基づき、リスク管理体制の強化をはかっておりますが、事業継続マネジメントの観点から各リスクに取り組むためリスク管理体制の見直しを行いました。

◆ 新型インフルエンザ対策のポイントを整理し、周知しました

厚生労働省新型インフルエンザ専門家会議「新型インフルエンザ対策ガイドライン（フェーズ4以降）」の感染予防対策の指針に基づき、国内外における対策ポイントを整理し、周知徹底しました。

ITセキュリティ対策

IT資産を適切に保護するため、ITセキュリティ委員会において方針を協議し、部門別セキュリティ委員会で運用しています。

2008年度の主な取り組み

1 情報漏えい対策の強化

・特定外部記録媒体の利用禁止 ・メール添付文書の自動暗号化

2 セキュリティ監査の実施

・外部監査によるセキュリティレベルのチェックと課題対応

社外ステークホルダーとのコミュニケーションを積極的にはかる

グンゼのCSR推進活動について
意見交換を行いました

グンゼCSR報告書等を活用し、CSR推進活動について意見交換を行い、皆さまから率直なご意見をいただきました。今後のCSR推進活動に活かしてまいります。

協働先	月	場所	テーマ	対象
立教大学大学院 21世紀社会 デザイン研究科	6	東京	グンゼの「是」と CSRの取り組み	ゼミ研究生 25名
立教大学大学院 21世紀社会 デザイン研究科	7	京都	グンゼの「是」とCSRの 実践視察 博物苑・記念館見学、 宮津工場見学	福田秀人教授、 ゼミ研究生 12名
NEXCO 西日本グループ	7	大阪	グンゼの「是」とCSR～ CSR報告書への展開と CSR演習	CSRレポート作成メンバー、 支社企画調整グループリーダー、 グループ会社CSR担当課長 他 約50名
関東学院大学 経済学部 他	9	中国	中国におけるCSRの 取り組み調査	関東学院大学経済学部准教授 小山巖也氏 他3名
日本労使 関係研究会 CSR研究会	11	東京	グンゼグループの 中国における アパレル事業の 進めかた およびCSRについて	上智大学名誉教授・ 弁護士 花見忠氏、 横浜国立大学名誉教授 神代和欣氏 他4名
東京交通 短期大学	12	東京	「グンゼグループの CSRの取り組み」	学生
NEXCO 西日本グループ	1	大阪	事業活動を通じた 協働事業を検討し、 攻めのCSRを 推進する Part1	NEXCO西日本CSR 推進関連担当者、 グンゼグループCSR 推進リーダー 他23名
立教大学ESD 研究センター CSRチーム	2	タイ	タイにおけるCSRと 日本企業の対応	立教大学ESD 研究センター CSRチーム研究員/ 福田秀人氏、中野民夫氏、 新谷大輔氏 他3名



NEXCO西日本グループさまとの意見交換会

CSR推進活動におけるCAP-Do

CAP-Do:現状を把握し、対策を講じる

グンゼではいわゆる「PDCA」のC(Check:問題発見)から始める、CAP-Doサイクルをまわしています。毎年10月を「企業倫理月間」と定め企業倫理の徹底推進をはかり、さまざまなステークホルダーからの信頼向上に努めています。

企業倫理月間スローガン

コミュニケーション 職場の 社会の 潤滑油

◆ 具体的実施内容

1 現状把握のためのチェックと評価

- (1) 2008年度 CSRアンケート(アンケート結果はDATA参照)
- (2) ハラスメント中央相談窓口対策会議

2 全社CSR委員会を開催し、進捗を確認し、対策を講じる

3 「CSR」を深化させ、進化するためのアクション

「善い人が良い糸をつくる」人格の成長が結果として良い製品をつくりだすという創業者 波多野鶴吉翁の信念は、全構成員を対象に実施するCSR研修にも反映。

(1) 経営幹部研修－企業倫理月間－

経営トップ層対象CSRセミナー
「戦略的CSR経営の実践について」



(2) 各部門CSR委員会の運営、事業所重点実施事項に基づくCSR推進計画の展開と、CSR関連講座の実施



守山事業所合同CSR講座



東北グンゼ(株) CSR講座

(3) 環境課題を事業活動で対応するための基礎研修

(カーボンフットプリント^{*1}、カーボンオフセット^{*2} セミナーなど)



CO₂削減と排出権取引セミナー

(4) 各部門がワンストップで相談を受け付けるためのハラスメント相談窓口セミナー



討議風景

CSRアンケートの実施と対策

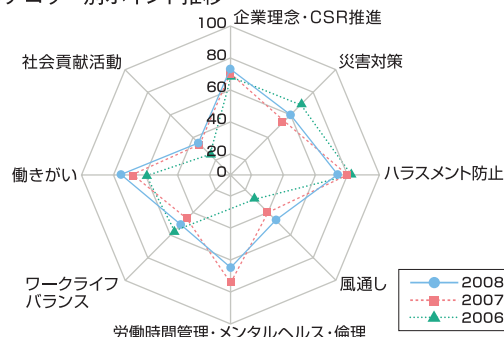
アンケート結果は、自由意見を含め、各層・部門CSR推進体制へフィードバックし、対策を講じています。

	2005年	2006年	2007年	2008年
回収	5,744人	6,008人	6,334人	6,416人
配布	7,903人	8,058人	7,778人	7,676人
回収率	73%	75%	81%	84%

2006年～2008年の結果概要

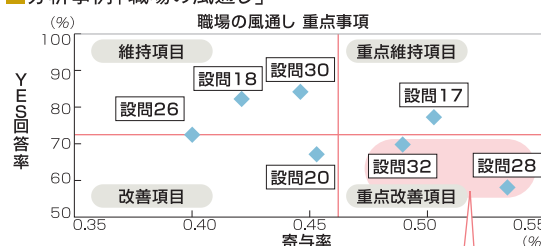
各部門の結果を集計し、それぞれのカテゴリーで平均しています。企業理念、CSR推進についての意識が比較的高く、風通し、働きがい、が少しずつですが毎年向上。災害対策・ワークライフバランス・社会貢献活動が全体的に低い数値となっています。

■ カテゴリー別ポイント推移



風通し改善に重点を置いて対策を講じた結果、2007年は39.4%だった職場の風通し度が、2008年の結果は45.7%と6.3ポイント改善。アンケートの分析結果から、風通し改善は不祥事を防止するだけでなく、品質、労働時間管理、働きがいの向上にも相関が見られました。「社会からの信頼」を向上するためには、身近な職場単位での相互信頼が基礎となります。

■ 分析事例「職場の風通し」



【設問】

設問	項目
17	職場で問題があったときは直属の上司にすぐ報告している
18	わたしの職場では「ルールを曲げてでも成果を優先する」という風土はない
20	わたしは職場で不正行為が行われていると思ったら、率直に意見する
26	直属の上司は業務遂行のために必要な情報をわたしに伝えている
28	直属の上司は仕事がうまくいったときや特別に努力したときに何らかの言葉をかけてくれる
30	職場の同僚同士は必要に応じ、お互いに助け合うことができる
32	社内に尊敬できる上司・先輩・同僚がいる(いた)

職場の風通し改善は2009年も重要テーマとして取り組みます

※P11～12を参照ください



◆お客さまの声を活かした具体的な取り組み

お客さまの声を関係部門にフィードバックし、共有化をはかり、商品の改善や売場構築に活かしています。

商品改善事例 ハウスカジュアルセンター

着用快適性向上のために

お客さまからいただいた改善要望を受け、商品の設計改善を実施しています。

- 1** 全開パンツのファスナーの左右がわかりにくい

全開タイプのパンツを洗濯後に元に戻す時にファスナーの左右がわかりにくい

2 全開パンツのファスナーのタブにゴロツキ感がある

腰の上部のタブがゴロつく

1のご意見に対する改善策

ファスナーのタブを左右で色分け（白・緑）してわかりやすくしました



2のご意見に対する改善策

腰、裾の両方からのファスナーとしてタブの位置は任意に上下できるようにしました



売り場の事例

お客さまにもっと知って欲しい！

「私たちがつくりました！」地元の皆さまに生産している私たちを身近に感じて欲しい

「グンゼ肌着で地産地消」をテーマに、生産スタッフや生産工場の様子など生産情報を開示（島根県出雲市）。



地産地消コーナーを展開



出雲アパレル(有)

その他の工場でもPOPを作成し紹介



宮津工場



東北グンゼ(株)

「THE GUNZE」の新機能

「消臭力、汚れ落ち」を見て欲しい

汗の汚れ成分を付着させた生地を水に入れたときの汚れの落ちかたや、臭いがなくなったら色が消える溶液を肌着に吹きつけ、臭いが中和される様子を実際に見ていただく実演販売を展開しています。



適正表示の順守

「表示機能最適化推進委員会」を新設

「適正表示」について、従来から正確な表示に努めておりますが、より確実なものとするため発売前の新商品表示について、妥当性を確認する仕組みを強化し、表示に関する法令教育などを繰り返し行っています。商品表示を最適かつ機動的に運用すること、および万一の不当表示発生時(表示間違いの場合を含む)における迅速かつ組織的な対応をすることを目的として「表示機能最適化推進委員会」を2008年度に新設、運用しています。不当表示はお客さまの信頼を裏切る行為であることを認識し、適正表示に努めています。



表示に関する法令教育

「お客さまからの期待に応えつづけるグンゼ」を目指し、適正表示はもちろん、商品の安全性、品質を何よりも第一優先に、皆さまからの信頼に応えてまいります



共存共栄をモットーに公正・公平な関係を構築し お取引先さまとともにCSRを推進します

公正・公平な関係構築と対話

協力工場との対話

各協力工場の皆さまと、現状の経営環境を共有し、今後の進むべき方向について率直な意見交換を行っています。



津山グンゼ(株)と協力工場の会議

下請代金支払遅延等防止法の 説明会を行いました

サプライヤー^{※1}の皆さまとの公正な取引による共存共栄をはかるため、アパレルカンパニーサプライヤー会議(61社参加)において、下請法順守に対するグンゼグループの取り組み内容をご説明し、サプライヤーの皆さまと適正な関係維持に努めています。



サプライヤー研修会

営業秘密管理の 徹底に取り組んでいます

グンゼグループは、2007年4月1日に「営業秘密管理基本規程」を制定し、情報管理に努めています。お取引先さまから新製品の開発情報等をいただく場合には「秘密保持契約」を締結し、グループ内の情報とは区別して厳密な管理を徹底しています。

2008年度は「営業秘密管理基本規程」を全構成員に周知するため、主要13事業所で研修会を開催し、管理職対象にeラーニングによる学習を行いました。2009年度は秘密情報の管理状態を把握するための監査を開始し、研修会を継続して実施します。



営業秘密管理研修会



グンゼグループサプライヤー行動規範^{※2}

グンゼグループは、「グンゼ行動規範」において、世界に通じる公正なルールに則り活動することを基本方針としています。サプライヤー各位がこの行動規範の示す、法令の順守、有用かつ安全な製品・サービスの開発・提供、環境への取り組み、人権・人格・個性の尊重に関する基本方針に賛同されることを期待しています。

法令順守について

- ・社会のルールを順守し、公正かつ自由な競争の中で企業活動を行う
- ・法令を順守し、常に高い倫理観をもち、反社会的行為は行わない
- ・国際ルールを順守し、関係各国の文化、慣習を尊重し、信頼される企業活動を行う

優良品の提供について

- ・企業活動を通じて社会に有用、かつ安全な製品・サービスを開発、提供する

環境保全について

- ・企業活動にあたって、環境問題に積極的に取り組み、地球との共存に努める

人権について

- ・人権・人格・個性を尊重し、人種・国籍・性別等による雇用と職業に関する差別を行わない
- ・児童労働、強制労働、過酷な懲罰等の非人道的な労働行為を行わない
- ・従業員が自らの意思により労働組合を結成する結社の自由および集団で交渉する権利を、法律で禁止されていない限り、尊重する

労働について

- ・安全で清潔な作業環境を確保し、従業員の健康に配慮する
- ・労働時間に関する法令及び賃金・福利厚生に関する法令を順守する

機密情報と知的財産について

- ・取引により知り得た技術、営業、個人等の機密情報の漏洩防止に努めるとともに知的財産を尊重する

贈答・接待について

- ・不当な利益等の取得を目的とする贈答・接待を行わない



地域社会貢献活動は ゲンゼ(郡是)の「是」(=方針)のひとつです

社会貢献活動の実践

◆◆ 社会貢献活動の基本的な考え方 ◆◆

- ゲンゼは、創業の精神「人間尊重と優良品の生産を基礎として、会社をめぐるすべての関係者との共存共栄をはかる」のもと、事業活動を通じ社会貢献を行います
- 構成員が一市民として行う社会貢献活動を支援します
- ゲンゼグループの技術・資産・人材を活かした地域社会貢献で、地球・社会との共存共栄をはかります

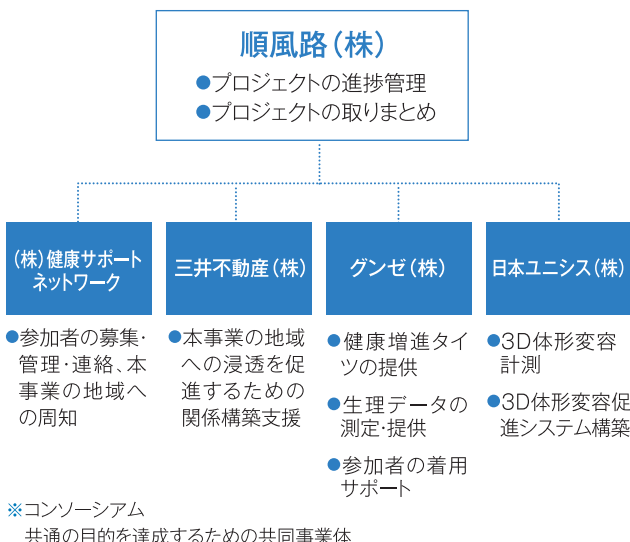
異業種連携「柏カラダすっきりプロジェクト」に参画

地域住民の皆さまの健康づくりを支援

千葉県柏市柏の葉地域は公民学連携の国際学術研究都市づくり構想の一環として「柏の葉予防医学プロジェクト」をはじめとして、地域企業・研究機関・医療機関・自治体が連携し、地域の健康づくり活動を推進しています。

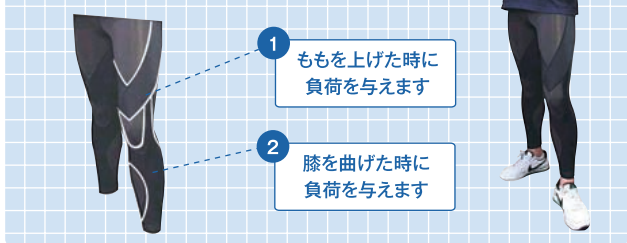
その柏の葉地域にて立ち上がった異業種連携「柏カラダすっきりプロジェクト」(経済産業省補助事業 2008年9月～2009年3月実施)にゲンゼは開発中の新製品「パワータイツ(仮称)」の提供で参画し、その健康増進効果について検証しました。

◆「柏カラダすっきりプロジェクト」コンソーシアム*



ゲンゼは、日本ユニシスさまが提供する3Dスキャン測定による体形計測データを基に健康増進を目的とした「パワータイツ(仮称)」をオーダーメイドで柏の葉地域のモニター101人に提供。3ヶ月間、体重・体脂肪率・安静時代謝等の生理データを測定するとともに、毎日の活動と食事の記録からレポートを作成し、モニターの健康づくりの支援を行いました。

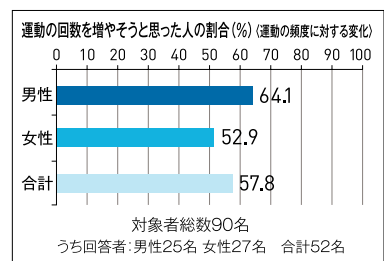
▶▶ パワータイツの特徴



◆モニター意識の変化

運動の意欲が高まった!

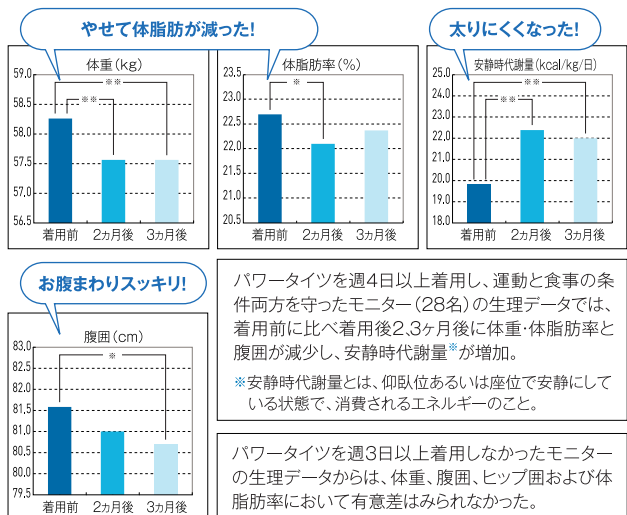
3D体形画像を見ることで、モニターの意識が変化して改善行動を起こし、さらにパワータイツの組み合わせが個人の運動の取り組みと継続に大きく寄与した。



◆モニター生理データの変化

検定方法: 対応のある場合の母平均の差の検定

※有意水準5% ※有意水準1%



この結果を活用し、今後もさまざまな健康の維持増進を目的としたウェアを研究・開発し、提供することで、
皆さまの健康づくりに貢献いたします

社会貢献プロジェクト グンゼラブアース倶楽部の取り組み※1

寄付活動

2008年度は20団体に支援を行いました。(支援先一覧は DATA 参照)

協働活動

支援協働先	活動内容	実行部門など
NPO法人 びわこ豊穡の郷	はたらくパーク& ウォーク	守山、大阪事業場より延べ 28名のボランティアを派遣
	川づくりフォーラム 「環境浄化微生物による汚泥の削減」報告	コーポレート コミュニケーション部 CSR 推進室
NPO法人 JEN	BOOKMAGIC※2	倉吉グンゼ 他23部門
NPO法人 緑の地球ネットワーク	使用済み切手・はがきの回収	グンゼ開発 他33部門
NPO法人 子ども環境活動支援協会	にしのみや ふるさとウォーク クイズラリーに参画	コーポレート コミュニケーション部 CSR 推進室
NPO法人 NPO人権センター	ウェブ紙芝居完成 http://www.gunze.co.jp/csr/movie/movie.html	グンゼラブアース 倶楽部有志
NPO法人 エコキャップ推進協会	ペットボトルのキャップ回収	グンゼスポーツ 他10部門
地域行政・学校など	プルタブ・アルミ缶回収	4部門
志賀郷に桜を育てる会	里山へエコザクラ植樹	綾部地区 有志 23名参加



びわこ豊穡の郷 川づくりフォーラム報告



にしのみやふるさとウォーク



志賀郷に桜を育てる会との協働活動でエコザクラ®を植樹



このほか、JENおよび国境なき医師団日本より講師を招き、支援先活動報告をいただきました。



NPO法人 JEN 村沢さま



NPO法人 国境なき医師団日本 中島さま

事業を活かした地域貢献

子どもたちや保護者のための「肌着セミナー」を実施

行政や学校の要請に応じ、肌着の基本的な役割から、季節や成長に応じた快適な肌着の着方、服装のTPOなどについて子どもたちや保護者に伝えるための「肌着セミナー」を実施しています。



東海村立白方小学校にて
(写真提供:教育家庭新聞社様)

環境教育を実施

京都府綾部市立何北中学校からの要請を受け、全校生徒に対し、環境教育を実施いたしました。



何北中学校での環境教育

エコプロダクツ2008に参加し、エコ商品・サービスを紹介

環境総合展「エコプロダクツ2008」にてグンゼグループの環境にやさしいものづくりとサービスの提供を紹介。また、肌着1枚を作るのに発生するCO₂量を表示するカーボンフットプリントの実験プロジェクトを展示いたしました。



THE GUNZE 汚れ落ち実験の様子

環境浄化木エコザクラ®を5事業所に植栽

地球温暖化の原因である二酸化炭素と、大気汚染原因のひとつである二酸化炭素の吸収能力が極めて高く、環境浄化木として注目を集めているエコザクラ®。2008年度はグンゼグループの5事業所へ33本を植栽いたしました。

TOPICS

ペットボトルのキャップを回収し、世界の子どもにワクチンを届けたい

グンゼスポーツ(株)はNPO法人エコキャップ推進協会の取り組みに賛同し、「ペットボトルのキャップを集め、CO₂を削減し、世界の子どもたちにワクチンを贈る」、これをテーマに、全店において会員の皆さまに呼びかける活動を展開しています。



グンゼスポーツエコキャップ活動



GUNZE FASHION DESIGN AWARD 2008 を開催し、デザイナーを目指す学生を支援

デザイナーを目指す学生の創作活動を支援し、斬新なアイデアを発掘するため実施。“人を楽しくさせるデザイン”をテーマに応募総数2,253点のなか、7作品が受賞。また、上海の学生にTシャツ部門でデザインを公募いたしました。



GUNZE FASHION DESIGN AWARD
2008 (日本)



Tシャツ部門・表彰(中国)

京都府景観資産認定

経済産業省の近代化産業遺産に認定されているグンゼ記念館・博物苑を中心に本工場正門や本社屋、桑の苑を含めたその周辺3.5ヘクタールが京都府景観資産に2008年9月認定されました。



綾部本社屋



グンゼ博物苑

協賛活動

福知山マラソンへ特別協賛し、 地域のスポーツ振興に貢献

京都府福知山市が主催する1万人のランナーの祭典「福知山マラソン」に特別協賛しています。グンゼグループからはランナー64名、ボランティア56名の総勢120名が参加いたしました。



梁瀬工場 小林玲子
この優勝に仲間一同感動しました!



グンゼグループのボランティアスタッフ

第11回 キャンパスベンチャーグランプリ大阪へ協賛

グンゼは関西の学生を対象とした新事業の提案コンテスト「キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)大阪」に毎年協賛し、起業家を目指す学生たちを応援しています。

24時間テレビ 「愛は地球を救う」へ協賛

グンゼスポーツ(株)では「24時間テレビ 愛は地球を救う」に賛同し、募金箱の設置のほか、協賛イベントを実施いたしました。



災害支援活動

国内外の大規模災害に対する 寄付や救援物資などの緊急支援活動

1. ミャンマー、中国四川省における自然災害 被災者支援(2008年5月発生)

(1) 国内グループ義援金活動

ジャパンプラットフォーム(ミャンマー被災者)、
日本経団連(四川省被災者)へ寄贈

総 額: 1,412,008円

〔 構 成 員: 706,004円 〕
〔 会 社: 706,004円 〕

(2) 中国事業所義援金活動

四川省被災者への義援金 105,143元(約1,577千円)

金橋鎮政府・常熟市董浜鎮政府・開発区総工会・

四川赤十字会・嘉定区赤十字局・長寧区紅十字会・

救助中心赤十字へ寄贈

(3) 救援物資の提供

●肌着1万枚/中国事業所より、
対外貿易経済合作局へ寄贈

●人工皮膚50枚/メディカル材料センターより、
四川省の地震被災者に対し寄贈

2. 岩手・宮城内陸地震被災者支援活動(2008年6月発生)

(1) 義援金活動

福島プラスチック(株)は、提案活動による賞金寄付
キャンペーンを実施。9万4,500円を寄贈

(2) 救援物資の提供

送り先: 宮城県栗原市避難所

紳士肌着 100枚 婦人肌着 150枚

このほか、各事業所において地域の環境フェスタへの参画、
地域清掃活動、献血活動、介護施設の訪問、工場見学の受け
入れ、職業体験など社会貢献を通じ、地域との共存共栄を
はかっています。



一人ひとりが健康に働き、達成感を味わえる “イキイキ・ワクワク職場”づくりを目指します

活力ある職場環境に向けた取り組み

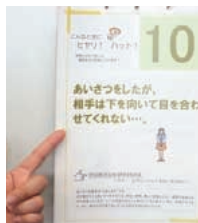
多様な人財の育成で SHINKA 3Sを実現する

3つの「SHINKA」*1を実現させる人財*2の育成のため、人間力・専門力・管理能力の向上を目指し、研修体系の整備・強化、OJTの活性化、事業のグローバル化に対応した能力開発体系の確立等の施策を推進しています。また、評価・処遇制度と人財配置（ローテーション、キャリア形成）との連動を強化することにより、人財育成の仕組みの総合的な進化と人財の活性化をはかっています。

全社意識改革運動 「SMILE（スマイル）next」を展開

商品やビジネスモデルの革新・改革を進めていく基盤として、構成員一人ひとりの意識改革を推進するため、2006年度から全社意識改革運動「SMILE（スマイル）」を展開。2008年度は「SMILE next」として活動を「新化、深化、進化」させ、“イキイキ・ワクワク職場”づくりを推進しました。

- S**peed キビキビとした動き
- M**anner 気持ちのよいあいさつ
- I**dentity グンゼのよき伝統を受け継ぐ
- L**ead 自分から一歩前へ出る
- E**nergy 大きな声で元気よく



「日めくり マナー・ヒヤリハット」で社内の実例に基づいたマナー集を作成し、啓発

自らキャリア設計できる 「社内公募制度」

意欲的な人財を発掘し、適財適所を実現することにより、業績向上と人財の有効活用、職場の活性化をはかることを主な目的として、「社内公募制度」を実施しています。社内公募によって異動した従業員は、自主的なキャリア形成を実現させ、高い意欲を持って新しい業務に取り組んでいます。

勤続10年目、25年目の構成員を対象とした 「リフレッシュイヤー制度」

2006年度から、勤続10年と25年の節目の年に、将来に向けた一層の意欲向上をはかる仕組みとして、「リフレッシュイヤー制度」を導入しています。夫婦や家族の旅行等に活用してもらうため、連続した有給休暇を付与しており、旅行費用の一部援助も行っています。

上司や会社との相互理解を深める 「自己申告制度」を年1回実施

毎年1回、上司や会社に対して自分の担当職務や人事諸制度等に対する意見、希望を申告したり個人的な事情を伝えたりするための「自己申告制度」を実施しています。自己申告書に記入した内容については、上司との面接の機会に、さらに十分に話し合い、指導、アドバイスを受ける仕組みにしています。

適財適所の人事配置のための 「希望職務登録制度」

これまでの経験や知識、技術を活かし、今後取り組んでみたい職務、職種や具体的な部署を登録できる仕組み（希望職務登録制度）を「自己申告書」の中に設けています。登録された希望職務は、本社で集約し、全社的な適財適所の人事配置を推進するための情報として、有効に活用されています。

多様な人財の採用・登用を推進

〈従業員〉

	グンゼ（株）単体在籍者			連結在籍者 合計
	男	性	女	性
2007年3月31日現在	1,576人		763人	2,339人
2008年3月31日現在	1,557人		756人	2,313人
2009年3月31日現在	1,512人		757人	2,269人

◆ 障がい者雇用の拡大

全部門での法定雇用率達成を目標に雇用推進をはかり、今年度も、法定雇用率（1.8%）を上回る1.87%という結果となりました。引き続き、経営指標の重要項目のひとつとして位置づけ、雇用計画を策定し、全部門での法定雇用率達成を目指します。

〈グンゼグループの障がい者雇用率〉

	%
2007年3月20日現在	1.92
2008年3月20日現在	1.84
2009年3月20日現在	1.87

ワークライフバランス制度の整備、 仕事と家庭の両立支援

男女がともに仕事と家庭の両立をはかることができる支援制度を目指しています。

現在、一般事業主行動計画(2回目)に基づき、子育てしながら働きやすい職場環境の整備や、育児関連制度の拡充、所定外労働削減のために週1回のノー残業デーの実施、労使協働による仕事と家庭の両立支援に取り組んでいます。

〈育児・介護支援制度の取得状況〉

	2006年度	2007年度	2008年度
育児休職取得者	52人	52人	49人
育児のための短時間勤務利用者	10人	12人	15人
子どもの看護休暇取得者	8人	9人	11人
介護休職取得者	1人	2人	2人
介護のための短時間勤務利用者	1人	1人	0人

VOICE!

育児休職取得者の声

上司・同僚の皆さんの理解と協力で、
心から感謝します

2007年1月に2人目の子どもを出産し、2008年5月に復職いたしました。小学校入学と、保育園入園がちょうど重なっていた時期でもあり、おかげさまで子どもの節目を見守ることができました。環境が変わり、慣れないなかでも一生懸命頑張っている子どもたちの姿に、わたしも仕事を頑張ろうと、力をもらっています。

復職後は、育児のための短時間勤務制度を利用しています。

早く帰ることで、申し訳ない気持ちになりますが、上司・同僚の皆さんの理解と協力で支えられて、仕事と育児の両立ができていないことに心から感謝しています。

久世工場
建城 雅美



経営の重要なパートナーとして、 労働組合とのコミュニケーションを積極的に推進

グンゼは、労働組合を経営の重要なパートナーとして、定期的な経営協議会、労使研究委員会、従業員満足度調査等を通じて、経営状況や各種課題の共有化をはかり、労使一体となって活力あふれる職場づくりに取り組んでいます。

労働安全衛生の取り組み

構成員の安全と健康を最優先に考えた 安全衛生水準の維持・向上

安全衛生方針に基づき、中央安全衛生対策委員会(本社・労働組合本部で構成)と各事業所の安全衛生委員会が協働して、年間計画に基づいた安全衛生管理活動を行っています。

グンゼ安全衛生方針

創業の精神である「人間尊重」の理念のもと、従業員の安全と健康を守ることが、経営の基盤であり、企業としての社会的責任であることを認識し、従業員が安全で健康に働ける快適な職場環境を実現するための活動^{*1}を積極的に推進します。

労働災害・交通災害の低減に向けた

取り組み(安全活動)の推進 (各災害の発生状況はDATA 1 参照)

◆ 労働災害の低減に向けた取り組み

各事業所での労働災害防止の積極的な取り組みにより、労働災害ゼロを目標に活動を展開しています。「個々の災害発生原因の究明と公表による類似災害の再発防止」・「日常の自主点検活動の強化」・「安全教育の推進」および「中央安全衛生対策委員会、安全衛生委員会による事業所巡視の実施」により安全第一に快適な職場環境の実現を目指しています。

◆ 交通災害の低減に向けた取り組み

社用車の運転者、自動車通勤者を対象とした運転適性診断や地元警察署等の協力による交通安全講習を実施しています。また、自動車通勤者の多い事業所では、定期的に通勤時の立ち番指導を行い、シートベルトの着用や一旦停止の確認など、安全運転の啓発を行っています。



交通安全講習

健康づくり、衛生活動の推進

◆ 健康管理活動

海外勤務者を含めた従業員全員の健康診断とその結果に基づく健康指導を実施しています。各事業所では衛生講話や健康教室の開催で従業員の健康管理意識の啓発をはかり、自動体外式除細動器(AED)の設置推進とあわせ救命講習を積極的に行っています。



救命講習

◆ メンタルヘルス対策

従業員とその家族のケアのために外部機関を利用した「心の電話相談」を設置しています(グンゼ健康保険組合と協働:相談件数はDATA 2 参照)。また、専門家による管理職・人事労務担当者向けの研修会を定期的に開催しメンタルヘルスの基礎知識やメンタルヘルス不全対応についての知識や技術普及をはかっています。

〈管理職等メンタルヘルス研修会実績〉

	開催回数	受講者数
2006年度実績	17回	403人
2007年度実績	20回	366人
2008年度実績	17回	332人



メンタルヘルス研修



環境経営は重要課題。海外事業所も含めたグループ全体で環境マネジメントシステム(EMS)を構築し、運営しています

グンゼグループと地球環境

基本的な考え方

1997年6月に制定した「グンゼ環境憲章」を基本に、環境課題や環境負荷低減の目標を定めたアクションプラン(環境行動計画)を策定し、環境マネジメントシステムの構築、環境負荷低減活動に積極的に取り組んでまいりました。

今後も環境会計など環境関連情報の積極的な開示と環境保全効果を高める環境経営に努め、地球との共生を目指します。

◆◆ グンゼ環境憲章とは ◆◆

グンゼには祖業である蚕糸業を通じて桑の栽培、養蚕、生糸の生産という自然の恵みのなか、地球・社会との共存共栄を目指してきた歴史があります

グンゼ環境憲章は将来にわたり自然の循環を大切にして、環境の保全に努め、地球・社会との共存共栄をはかり、持続的発展に貢献することを表明したものです

◆◆ グンゼ環境憲章 ◆◆

われわれは、かけがえのない地球を次世代、未来へと受け継いでいく責任を深く自覚し、真に豊かで持続可能な発展する地球社会を実現するため、一企業市民として環境問題に積極的に取り組み、環境への負荷の軽減に努め、環境を維持、保全していかなければならない。このため、われわれは、環境に対する社会的責務を認識し、環境問題に取り組むべく、環境基本理念と行動指針を定める

◆◆ 環境基本理念 ◆◆

われわれは、環境に優れた製品^{*1}の提供を通じて、地球環境と調和し、全てが調和しうる、恵み豊かな地球社会の発展に貢献する

◆◆ 行動指針 ◆◆

- ① 事業活動の全ての場面において、環境負荷の低減に努める
- ② 法・条例の順守はもとより、自主管理基準を設定し、環境管理水準の向上に努める
- ③ 資源、エネルギーの効率的利用をはかり、省資源・省エネルギーを推進する
- ④ 廃棄物の発生量の低減に努めるとともに、発生した廃棄物の減量化・回収・再利用化を推進する
- ⑤ 環境に優れた製品の研究開発、および環境負荷を低減する生産技術、環境技術の開発に努める
- ⑥ 構成員の環境意識の向上をはかり、地域社会の一員として環境保全活動に協力、貢献する
- ⑦ 海外事業の展開において、環境への配慮と環境技術移転に努める
- ⑧ 万一、事故等による問題が発生した場合には、迅速に環境負荷の最小化に努める

アクションプラン2010:各年度の目標と2007/08年度の実績

		基準年度 実績値	2007年 実績	2008年 実績	2008年 目標	目標達成 状況	2010年 目標	備考
CO ₂ 排出量削減 (トン)		98,288 (1990年)	102,436	95,720	93,800		92,390	昨年度より大幅に削減いたしましたが、目標には届きませんでした
運送エネルギーの削減 (ℓ/トン)		40.0 (2006年)	39.5	42.2	39.2		38.4	原単位で対前年より2.7ポイント増加しました
廃棄物	総発生量の削減 (トン)	10,234 (2004年)	10,422	9,519	9,320		9,000	対前年よりは削減しましたが、目標達成には足りませんでした
	排出量の削減 (トン)	5,127 (2004年)	3,374	2,667	4,000		3,000	廃棄物の資源化の促進により目標を達成しました
	リサイクル率 (%)	69% (2000年)	98.7%	98.3%	99.0%		99%	目標にはわずかですが届きませんでした
用水使用量 (千m ³)		6,021 (2000年)	5,012	4,656	4,700		4,500	目標を達成しました
PRTR ^{*2} 対象物質 (トン)		385 (2000年)	104	117	175		75	目標を達成しました

(注1) 廃棄物の排出量とは事業所から廃棄物として廃棄物処理業者に委託したものをいう(リサイクル品を含む。有価物は除く)

(注2) 用水使用量(2006年)削減目標からオフィス・サービス・物流部門は除く

(注3) 2010年目標は2008年4月時点のもの

2007年実績データに一部集計漏れがありました。お詫びして訂正いたします。

目標達成状況の自己評価

がんばりました がんばります

ISO 14001登録追加 グンゼスポーツクラブ 南草津レイクブルー (琵琶湖東側、JR南草津駅前に2008年4月にオープン)

ISO14001のシステムの導入は、スタッフ全員が一丸となって取り組み、システムを構築いたしました。2009年2月、初めての更新審査では、グンゼスポーツ全体において「多数のサイトにおけるEMS運用の高位平準化が達成されている。」との評価をいただきました。

琵琶湖にちなんだ南草津レイクブルーという名前にあるように、今後も地球環境に配慮した運営を心がけてまいります。

グンゼスポーツ 栗田 香一



グンゼスポーツクラブ 南草津レイクブルー

2008おかやま発クールビズ宣言 県知事賞受賞

久世工場は「2008おかやま発クールビズ宣言*」に参加し、2006年受賞から、今回2度目になる県知事賞「晴れの国クールビズ賞」を受賞しました。(参加企業214社より12企業・団体が選出。)

具体的取り組み内容

- ① 職場の夏の冷房温度は28℃に設定
半そでTシャツでの作業を徹底
- ② 「心身のクールビズ」として、
週1回 フレッシュデー(終業時間に帰る日)を制定
- ③ よし簾を設置し、室温上昇を抑える
- ④ お客さまには冷たいアップルティーで暑い夏を少しでも
さわやかに



よし簾を設置[久世工場]

*2008おかやま発 クールビズ宣言

岡山県では、地球温暖化防止のため、6月1日から9月30日までの間、「クールビズ」県民運動を展開。一人ひとりが地球温暖化防止を意識し、できることから温暖化防止の取り組みを実施する方針にグンゼも賛同しています。

グリーン購入(事務用品)の購入率が 今年も100%を達成しました

グリーン購入は事務用品54品目を選定、国内43事業所にて実施しています。グリーン購入率は2008年度も100%を達成。

環境監査を実施し、 システム改善・維持に努めています

各取得事業所において、外部審査と自主的な社内監査を毎年実施し、システムの維持・改善をはかっています。社内監査員育成のためのスキルアップ研修では、学んだ知識をもとに他事業所にてかけ、実際に監査を行う実地トレーニングを行っています。



外部審査の様子

各取得事業所環境監査から判明した事例

不適合事項の事例

- ・マニフェスト実績の届出が一部実施されておらず、新規の法律への対応が徹底されていない。
- ・EMS活動が一部徹底されていない。また、内部監査を含めたマネジメントシステムに不備がある。

改善の機会の事例

- ・2ヶ月連続目標未達成の処置として、「予防処置計画書」を検討しているにもかかわらず、処置後も単月で目標未達の時がある。潜在的な原因の除去に至っているのか、その有効性を再レビューする必要がある。
- ・「グリーン購入管理基準／グリーン購入法」、「フロン回収管理基準／フロン回収破壊法」および「マニフェスト運用標準／廃棄物処理法」などの法・条例改正への対応を徹底することが、運用レベルにおける法令順守の確実性につながる。これら運用基準・標準の整備が課題である。

ストロングポイントの事例

- ・配送システムの電子化の推進により伝票レスが実現し、省資源に寄与している。
- ・物流の効率化の徹底、木製パレット再利用の推進などがCO₂削減に寄与している。



地球環境との共存共栄をはかるため事業活動にともな環境負荷の低減に努めています

環境負荷の全体像

Gunzeの事業活動と環境負荷

わたしたちの事業活動は消費財、生産財の生産活動からサービス事業など、多岐にわたります。環境に影響を及ぼすものとして、これら事業活動のために必要なエネルギー・資源の消費、およびそれにともなって排出される産業廃棄物、二酸化炭素、大気

汚染物質、化学物質などがあります。地球環境との共存共栄をはかるため、事業活動にともなう環境への影響を把握し、環境負荷の低減に努めるとともに、環境に配慮した商品やサービスを提供いたします。

〈 〉内は、海外事業所の数値です

エネルギー(kℓ) (原油換算)	53,747 〈16,772〉
●電 気 (千kWh)	139,845 〈54,769〉
●重 油 (kℓ)	12,243 〈2,007〉
●灯 油 (kℓ)	147 〈0〉
●LPGガス (トン)	754 〈169〉
●都市ガス (千m³)	4,472 〈798〉
用 水 (千m³)	5,214 〈764〉 ▶P31
●河 川 水	935 〈142〉
●市 水	585 〈184〉
●地 下 水	3,607 〈48〉
●工業用水	87 〈390〉
化学物質 (トン) (PRTR対象物質)	117 ▶P32
主要原材料 (トン)	47,649 〈18,480〉
●天然繊維	6,051 〈4,692〉
●合成繊維	3,842 〈3,220〉
●樹 脂	31,060 〈9,347〉
●フィルム	6,351 〈980〉
●ガ ラ ス	333 〈170〉
●鋼 材	12 〈71〉
資 材 (トン)	4,191 〈2,258〉
●副 資 材	1,240 〈262〉
●荷材・包材	2,944 〈1,996〉
●そ の 他	7 〈0〉

INPUT [インプット]

投入

調達

GUNZE グループ

[研究開発]



- CO₂排出削減
- 省エネ

- VOC^{*1}削減
- 大気汚染防止

〈環境会計〉

環境保全活動の一環として、環境省の「環境会計ガイドライン」に基づき環境会計を公表しています。

2008年度の環境保全コストは、投資額が3億7,900万円、費用額が11億2,800万円。公害防止対策として、VOC^{*}除去設備の導入を行い、設備投資額が増加しました。費用額とは人件費や設備運転のための費用が主であり、毎年大きな変動はありません。

環境保全コスト(海外含む)について

2007年度費用額実績に一部漏れがありました。お詫びして訂正いたします。また、項目区分を見直しました。

〈環境保全コスト(海外含む)〉

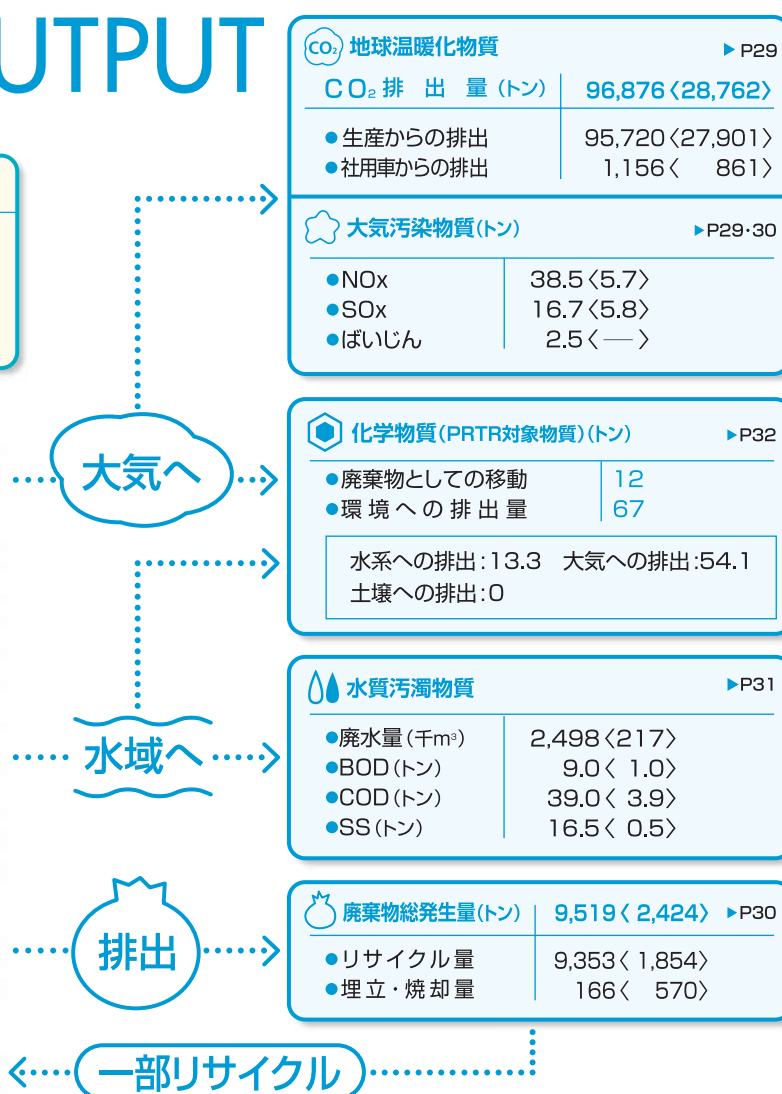
単位:百万円

項 目	2007年度		2008年度	
	投資額	費用額	投資額	費用額
公害防止対策	24	299	155	278
地球環境対策	108	348	99	337
資源循環利用対策	14	234	120	226
上下流コスト	2	17	3	34
管理活動コスト	—	167	—	148
研究開発コスト	—	36	2	33
社会活動コスト	—	10	—	27
その他コスト	—	44	—	45
合計	148	1,155	379	1,128

う環境への影響を把握し、

【アウトプット】 OUTPUT

製品(トン)	42,559<17,285>
●繊維	9,541<8,114>
●フィルム	27,561<8,237>
●印刷物	5,227<827>
●その他	230<107>
(生産設備は除外)	



〈環境保全にともなう経済効果(海外含む)〉 単位:百万円

項目	2007年度	2008年度
廃棄物処理の節減効果	256	334
資源削減効果	104	109
省エネルギー効果	232	292
廃水処理実施効果	495	498
コジェネ ^{*1} ・熱回収効果	28	16
合計	1,115	1,249

(注) 燃料の高騰によりコジェネの経済効果は減少

〈集計の基本となる事項〉

【対象範囲】

グンゼ株式会社、国内グループ会社30社および海外グループ会社17社

【対象期間】

国内グループ会社 2008年4月1日～2009年3月31日

海外グループ会社 2008年1月1日～2008年12月31日

【項目分類】

環境省「環境会計ガイドライン」に沿って分類・集計

【経済効果】

廃水処理実施効果とは、廃水処理設備を設置していることにより、下水道費が削減できた費用を計上。特定の環境対策を行わなかった場合、想定される賠償額などのリスク回避効果(みなし効果)は採用していない



CO₂やVOCなどの排出削減に取り組み、 地球環境保全と資源の有効利用に努めています

CO₂排出量削減への取り組み

CO₂排出の少ない燃料への転換や 省エネルギー活動の徹底で、CO₂を大幅に削減

ボイラーに使用する燃料をA重油、プロパンガスからCO₂排出量の少ない液化天然ガス(Liquefied Natural Gas:LNG)へ転換。エネルギーロスの削減として、排熱回収の効率化、設備・スペースの効率化、高効率機器の導入などを実施。その結果、事業の拡大などで増加した事業所が一部ありましたが、全体的にはCO₂を大幅に削減しました。

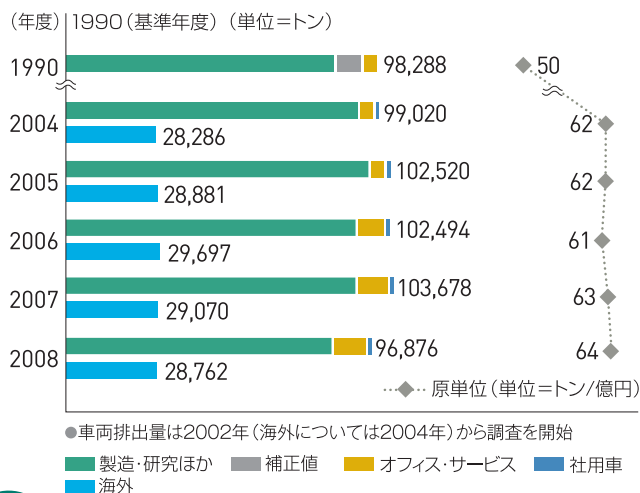


郡是高分子工業(株)
LNG炊ボイラー



福島プラスチック(株)
LNG炊ボイラー

CO₂排出量の推移



TOPICS

平成20年度JICA^{*}への協力・支援「省エネルギー研修」

JICAが主催している『省エネルギー』研修への協力・支援を毎年実施しています。本年は、ウクライナ・メキシコ・ケニア・ブラジルなど12カ国から16名の研修生が参加しました。

^{*}JICA

Japan International Cooperation Agency (JICA) 開発途上国への技術協力を目的とした独立行政法人



宮津工場の貫流ボイラー設備を見学するJICA研修生

バイオ燃料の利用を促進

現在2事業所で工場や社宅から排出される食用油から再生したバイオ燃料を自社のトラックなどに使用し、CO₂の削減や廃水への負荷を低減しています。



社宅に設置した天ぷら油回収場所
[久世工場]



廃油を利用したバイオ燃料使用車
[久世工場]

●EDF (Eco Diesel Fuel エコディーゼル燃料)

低公害車^{*1}への切り替えて CO、NOx、HC^{*2}の排出抑制を推進

リース契約更新時、社用車を低公害車に切り替えCO、NOx、HCの排出を抑制しています。

2008年度は三ツ星以上の車の比率は59%となりました。

〈低公害車導入実績〉

	年度	総保有台数	未対応車	★良	★★優	★★★超	ハイブリッド車
台数	2006	322	80	59	9	165	9
	2007	313	80	46	12	165	10
	2008	314	78	36	13	177	10
比率(%)	2006	100	25	18	3	51	3
	2007	100	25	15	4	53	3
	2008	100	25	12	4	56	3

改正大気汚染防止法に基づきVOC^{*3}除去設備を導入

電子部品事業部では、コーティング機^{*4}の増設に伴い、製造工程で排出する揮発性有機化合物(VOC)を焼却し、削減するため、VOC除去設備を導入しました。



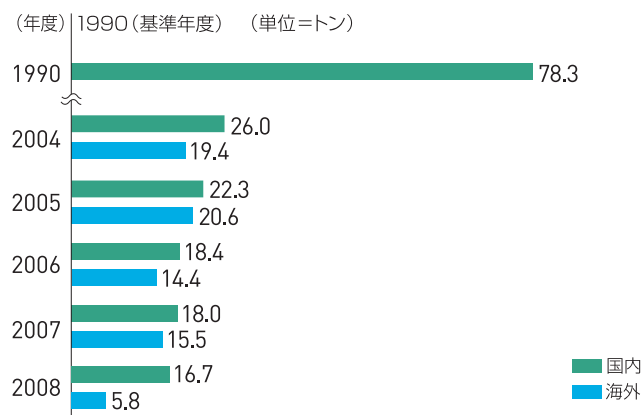
電子部品事業部 VOC除去設備

大気汚染防止に向けての取り組み

燃料転換により環境負荷を低減しています

生産や暖房に使用しているボイラーやコジェネ設備の燃料は、重油やガスを使用しており、燃焼時に硫黄酸化物(SOx)や窒素酸化物(NOx)^{*1}、ばいじんが発生します。SOx排出量削減のため低硫黄の重油(硫黄分0.1%以下)の使用やコジェネの燃料として環境負荷の少ない都市ガスへの転換を進めています。2008年度は国内2事業所をLNGに燃料転換し、SOx、ばいじん削減をはかりました。また海外事業所ではタイグンゼが低硫黄重油への切替によりSOx削減をはかりました。今後はさらに燃料転換の拡大や、ボイラー燃焼効率向上による重油の使用量低減に努めます。

硫黄酸化物(SOx)排出量の推移



〈汚染賦課金^{*2}負担金額(グンゼグループ)〉

年度	2006年度	2007年度	2008年度
金額(万円)	1,429	1,372	1,283

2006年度～2008年度版CSR報告書については、単位を誤って記載しておりました。お詫びして訂正いたします。

〈2008年度のSOx、NOx測定結果〉

▶ボイラー

	ばいじん(g/m ³)	NOx(ppm)	SOx(k値)
規制値	0.25~0.3	180~230	8.76~17.5
測定結果	0.001~0.023	53~120	0.02~1.3

※地域により規制値が異なります

▶コジェネシステム(ディーゼル)

	ばいじん(g/m ³)	NOx(ppm)	SOx(k値)
規制値	0.1	950	8.76
測定結果	0.006~0.026	18~680	0.11~0.5

※地域により規制値が異なります

車種規制適合車の徹底で、大気汚染防止に努めています

大阪府は、窒素酸化物や浮遊粒子状物質にかかわる環境基準の確実な達成をはかるため、条例を改正し、排出基準を満たさない流入車の規制を実施(大阪府流入車規制:2009年1月1日施行)。対象となる事業所において、規制適合車を使用し、大気汚染防止に努めています。



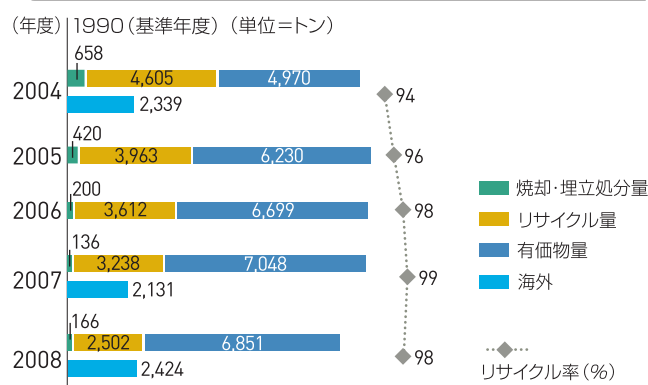
(株)ルフランの規制適合車

廃棄物の有効利用と削減

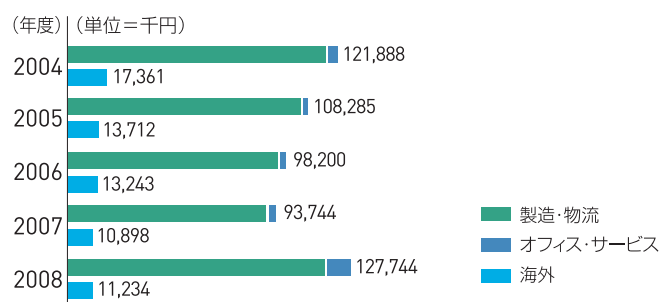
廃棄物の有効利用は前年より8.9%改善しましたが、処理費用は増加しました

2008年度の廃棄物の総発生量は全体で9,519トンと、目標の9,320トンに1.8%届きませんでしたが、対前年では8.9%改善しています。2008年度は経済状況の影響により、有償での再資源化が減少し、廃棄物の処理費用は対前年で24%増加しています。

廃棄物処理内容の推移



廃棄物処分の費用



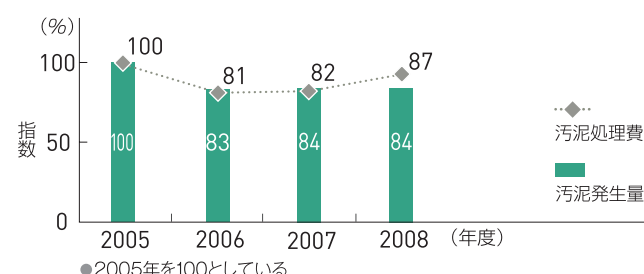
汚泥^{*3}の削減に努めています

2005年から環境浄化微生物「えひめ」^{*4}を国内事業所の廃水処理に順次拡大し(8事業所中、6事業所導入)、汚泥発生量の削減に努めています。



梁瀬工場 環境浄化微生物「えひめ」の培養設備

汚泥発生量と汚泥処理費





大切な水資源の保全に努めています また、PCBなどの化学物質の管理の徹底をはかっています

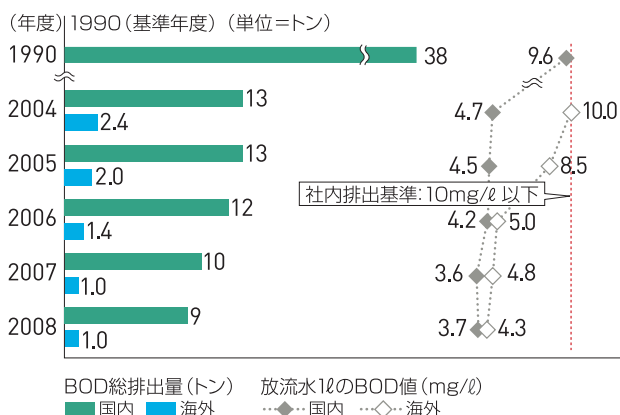
水質汚染防止

廃水は自主基準を設け、厳しく日常管理しています

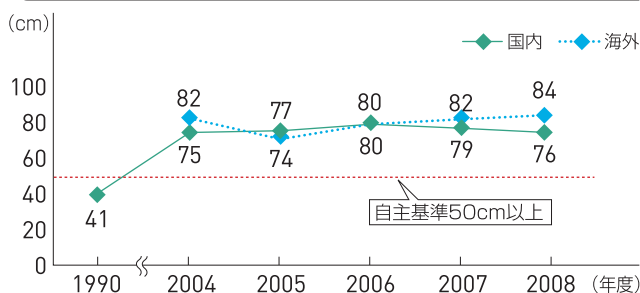
グンゼグループでは主に繊維加工における染色やその他の加工に多くの水を使用しています。これらの廃水は、自社独自技術による廃水処理設備で処理しています。BOD^{※1}、COD^{※2}、SS^{※3}などの水質汚染指標の管理以外に着色度^{※4}や透視度^{※5}という指標を設け、法基準よりさらに厳しい自主基準を設定し、国内外問わず、同一基準で厳しく日常管理をしています。

2008年度も法基準、自主基準ともにクリアしています。

BOD排出量と排水BOD濃度の推移



透視度



〈水質管理基準と2008年度実績〉

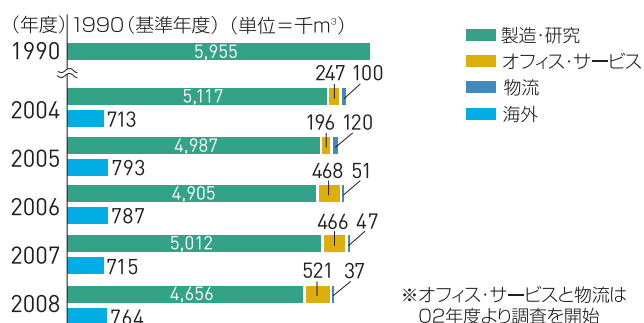
	単位	国の基準	自主基準	実績値	
				国内	海外
BOD	mg/ℓ	40～120	10以下	2～7(3.7)	4～5(4.3)
COD	mg/ℓ	40～120	30以下	7～25(15.8)	15～26(20)
SS	mg/ℓ	40～150	10以下	4～12(6.6)	6～9(8)
透視度	cm	なし	50以上	56～91(76)	79～89(84)
着色度	倍	なし	30以下	7～25(16)	8～10(9)

()内は平均値

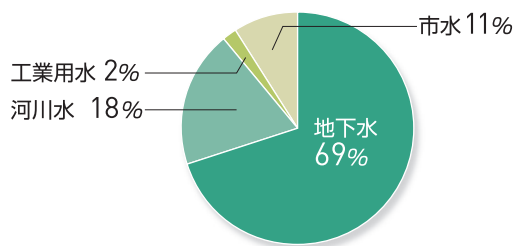
工程改善やロス削減により、用水使用量の削減に努めています

グンゼグループでは、用水の全体使用量のうち、地下水が69%を占め、主に繊維部門における染色や空調の冷却などに使用しています。用水使用量削減の取り組みとして、冷却用水の再利用や水や薬品使用の少量化を実現する機械(パディング加工機)への転換、そして各加工におけるロスの削減を推進し、対前年で5%削減しました。

用水使用量の推移



〈2008年度の用水使用量の内訳〉



TOPICS

済南元首針織股份有限公司(中国)における 廃水処理技術の支援

急速な経済発展を遂げる中国において、環境問題に対する企業の責任はますます高まっています。

そこで、技術提携先である済南元首針織股份有限公司において、日常の廃水処理の管理や適正な脱色条件の整備などの勉強会を実施し、法基準をクリアするだけでなく、独自基準を設定し、徹底をはかることができるよう、支援しています。



日常管理方法についての説明



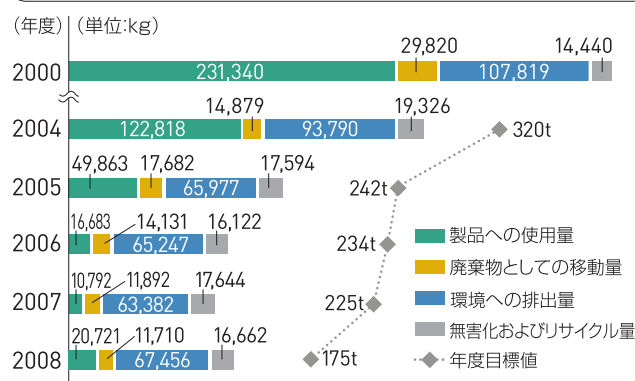
凝集沈殿脱色の適正条件についての説明

化学物質管理

PRTR^{*1}対象物質の総取扱量は、 目標比65%の削減を実現いたしました

PRTR対象物質の総取扱量は117トン。目標取扱量の175トンに対し、大きく削減いたしました（目標比66%）。重金属の使用においては、少量ですが鉛の使用が残されており、全廃に努めています。

PRTR対象物質取扱と移動量



2007年実績データに一部集計漏れがありました。お詫びして訂正いたします。

PCB使用機器は、基準に従い、適正に管理しています

PCB使用機器は低濃度PCB混入機器^{*2}も含め、国の基準に従い適切に管理しています。2009年3月にPCB入りコンデンサー1台と蛍光灯安定器325台が発見され、保健所の指導に従い、特別管理産業廃棄物保管倉庫へ移送、保管しました。2009年度は守山工場ほか3カ所のPCB使用機器の処理を予定しています。



PCB混入蛍光灯安定器
撤去作業

〈高濃度PCB入り機器の保管数と登録数（2009年3月現在）〉

機器名	総保管数	登録数	登録対象外数
コンデンサー（高圧）	196台	194台	2台
コンデンサー（低圧）	79台	12台	67台
その他（オイル、ウエス）	2缶	1缶	1缶
蛍光灯の安定器	1,678台	—	1,678台

〈低濃度PCB混入の可能性がある機器の調査状況（1989年以前に製造された機器）〉

	調査対象数	調査完了数	PCB混入数	未調査数
トランス	412台	333台	115台	79台
コンデンサー	147台	20台	5台	127台
その他	37台	19台	3台	18台
合計	596台	372台	123台	224台

吹き付けアスベスト、保温材アスベストとも 計画的に撤去を進めています

吹き付けアスベストは計画的に撤去を進めており、2008年度は出雲アパレル（有）と宮津工場で撤去工事を行いました。保温材やパッキン等、2002年以降は新規使用を禁止しています。現存する保温材アスベストは計画的に撤去を進めています。



アスベスト除去作業[出雲アパレル（有）]



アスベスト除去後[出雲アパレル（有）]

環境事故防止のための想定訓練

グンゼグループでは、環境マネジメントシステムに則り、環境月間などを利用し、定期的に不具合箇所がないか、管理・点検を徹底し環境事故防止に努めています。

また、突発事故や緊急事態に備え、策定している手順の確認と想定訓練を定期的を実施しています。



油の流出事故を想定した訓練
[東北グンゼ（株）]

環境事故

今年度は環境事故が1件発生。大きな環境汚染事故にはいたりませんでしたが、日常的な基本管理、点検の徹底や想定訓練など、再発防止に努めます。

液体染料タンク120リットルを構内にて搬送中、転倒。液体染料（黒）約30リットルが雨水排出溝から河川を経て河口へ流出。ただちに回収作業を実施するとともに関連行政、漁業共同組合連合会へ通報。当該液体染料に有害物質は含まれておらず、環境、生物への影響は少ないと考えられます。関係機関および地域住民の皆さまへお詫びおよび説明を実施。緊急対策会議において事故原因を究明し再発防止を講じました。



株主・投資家の皆さまからのご理解と信頼構築のため、適正な情報開示と利益還元に努めます

公正・適正な利益還元と情報開示

利益配分に関する基本方針

グンゼグループは株主の皆さまに対する利益還元を経営の重要政策と位置づけ、連結配当性向30%程度を当面の目安に、中・長期的な業績見通しに基づき、安定的・継続的な利益還元を行ってまいります。

自己株式の取得

世界同時不況と急激な環境変化の影響を受けて、当社グループを取り巻く経営環境が著しく悪化しており、今後も不透明な状況が続くものと予想されることから、中期経営計画「SHINKA 3S」で掲げておりました総還元性向（100%を目処）方針は一時凍結いたします。

株主還元の充実のために、株主優待制度を実施しています

2007年度より株主優待制度を導入しています。

対象	優待内容
期末時(3月31日現在の株主様)	通販カタログ商品の20%割引優待
中間時(9月30日現在の株主様)	①株主様専用カタログより商品贈呈 1,000株以上保有-3,000円相当の当社商品 3,000株以上保有-6,000円相当の当社商品 ②通販カタログ商品の20%割引優待



株主様
専用カタログ



通販カタログ
「CeleStyle」(左)・
「GUNZE BASIC
COLLECTION」(右)

積極的なIR活動を展開し、株主・投資家とのコミュニケーションを推進しています

グンゼグループでは、企業情報の開示を重要事項と認識し、適切かつ迅速な情報提供のために担当部署を設置し、積極的に活動しています。情報開示は、各種法令・規則に則り、また適時開示該当以外についても、公平性に留意しつつ、適時・適切に開示しています。

◆個人投資家とのコミュニケーション

2009年2月、個人投資家向けイベント(関西ノムラ資産管理フェア: 関西地区での個人投資家向け最大級の規模:2日間で1万7千人の来場)に出展しました。



◆グンゼホームページ IRサイトの充実

株主・投資家の皆さまに、より深くグンゼグループをご理解いただくため、各種IR関連資料をホームページで積極的に開示しております。

IRサイト

URL <http://www.gunze.co.jp/ir/index.html>



[主な開示資料]

決算短信(四半期ごと)、有価証券報告書・四半期報告書、株主通信(年2回)、CSR報告書(年1回)、決算説明会資料(年2回)、株主総会資料(年1回) など

SRI指数^{*1}への組み入れ

グンゼの株式は、CSR推進活動が評価され、次のSRI指数に継続して組み入れられています。

- FTSE4 Good インデックス^{*2}シリーズ (FTSE社)
- モーニングスター社会的責任投資株価指数 (モーニングスター社)

VOICE!

IR担当者の声

迅速・公正な情報開示に努めています

株主・投資家の皆さまと積極的なコミュニケーションを通じ、その声を経営に反映することが何より重要と考えています。株主・投資家の皆さまの適正な投資判断に資するよう今後も公正・透明かつスピーディな情報開示に努めてまいります。

コーポレートコミュニケーション部
広報IR室 安達 卓哉





立教大学
ESD研究センター
CSRチーム委員
元立教大学教授
福田 秀人

「はきものをそろえる」の徹底

私は、立教大学ESD研究センターのCSRチームの委員をしている。ESDとは、エデュケーション・オブ・サステナブル・ディベロップメントの略、「持続可能な開発のための教育」という意味である。同センターは、国連総会で決議されスタートした「ESDの10年」に呼応して設立された。そして、今年2月、6名の学者・研究者でCSR視察団を結成し、グンゼの工場も訪問した。

トイレをかりたメンバーが、戻ってくるなり「すごいですよ」と、感激の面持ちでいった。トイレに入ったところの床にスリッパマークが描かれ、そこにトイレ用のスリッパが揃えておいてあった。「三つの躰」のひとつ「はきものをそろえる」が実行できる仕組みが作られ、実行されていたのである。

この程度で、なぜ、驚くのか。日本では珍しいことではない。実は、タイのカビンブリという辺境地域に建てられたタイグンゼの工場だったからである。よく、会社でも、家庭でも、「トイレをみれば分かる」といわれる。ちなみに、工場長たちは、「なぜ、この程度で驚くのか」と不思議そうだった。



すごさを感じさせないすごさ

私は、「これがグンゼですよ」と、鼻高々に言った。なぜなら、私は、グンゼの中堅社員4グループの合宿研修を1クール、綾部・宮津の工場見学を2度しており、グンゼの皆さんの、なにごとに真摯に対応する姿勢に、「真面目な会社だな～」と感心し、CSR視察でも、バンコクから車で往復5時間かかるタイグンゼ工場訪問を一方的に決めていたからである。

うるさ型のメンバーばかりであり、東南アジアの日系企業の工場を数多くみているメンバーも3名おり、一抹の不安があったが、これで私の団長としての権威も確立した。ちなみに、メンバー全員が、トイレだけでなく、タイグンゼの工場をチェックして回った上で、CSRについて最高評価をした。もちろん、あいさつもそうじもきちんとしていた。

そして、私は、タイでも最貧地域で、あらゆる面で後進的



とされ、殺伐とした環境のカビンブリに、日系企業の先頭を切って進出し、工場を建て、雇用機会を創出し、価値観が大きく異なる現地従業員を教育し、グンゼの創業以来の理念と価値観を浸透させてきた歴代の日本人幹部のとてつもない努力の積みあがに敬服すると同時に、グンゼのすごさを感じさせないすごさを感じた。また、地域の学校を訪問し、交流し、さらに、猛暑のなか、校舎の修理までしていることを知り、頭が下がる思いであった。

いったい、タイグンゼの状況を見た第三者として、CSRについて何を意見できるのか。タイグンゼに勤務した日本人幹部だけが特別なグンゼパーソンではないはずである。グループ全体で9,000名に達する社員のなかには、パワハラ、セクハラ件数の増加が示すとおり、問題社員、問題幹部もいるであろう。仕事で、手抜きやごまかしをすることもあってもいい。バランスシートの在庫の多さは、製販連携の構造的問題をうかがわせる。しかし、グンゼは、CSRについては、最もしっかりとしている企業のひとつと確信している。

誠実さと熱意を感じさせる報告書

ただし、CSR報告書自体については2つの疑問がある。

第1に、色素増感太陽電池を特集でうちだすのは、実用化の難しさや多数の競合を記しているものの、過大な期待を誘発する勇み足ではなからうか。他に、実用化している素晴らしい成果がいくつもあるのだから、その1～2をピックアップして紹介すべきと思う。もちろん、近々、実用化のメドがついているのなら別であるが。第2に、私自身、愛用している素晴らしい機能を持ち、グンゼを代表する肌着ともいえるTHE GUNZEが、片隅に掲載され、また、そのよさが伝わらない表現には、いらいらさせられる。これでは、むさくるしい中年男を連想させる防臭グッズの宣伝である。その上段の「売り場の事例」も、これでは載せない方がましと思った。逆に、「いいな」と思ったのは、不進不存をキーワードにした平田CEOと忰山CCSROの対談と、その下段に創業精神など重要な理念や規範を簡潔明瞭に掲載し対談と連動させた構成。「職場の風通し改善」、「イキ、イキ、ワクワク職場づくり」といったコンセプトと、その頁の内容。「環境負荷の全体像」の工夫された表現。ほとんどの頁に数値データを入れ、状況をきちんと示したこと、などである。総じて、グンゼの誠実さと、できる限り読みやすくしようという熱意を感じさせる、CSR報告書である。

第三者意見を受けて

福田先生と弊社のかかわりは、2007年3月に実施した立教大学大学院「21世紀社会デザイン研究科」の皆さまと小谷会長(当時)とのCSR活動に関する対話をはじめ、国内外事業所ご見学、各所での研究会などを通じて、忌憚のないご意見をいただいております。

先生のご指摘にありますとおり、より一層誠実に、熱意をもってステークホルダーの皆さまのご期待に応えることに努めてまいります。

P.14

DATA 中央ハラスメント相談窓口に寄せられた相談内容の内訳

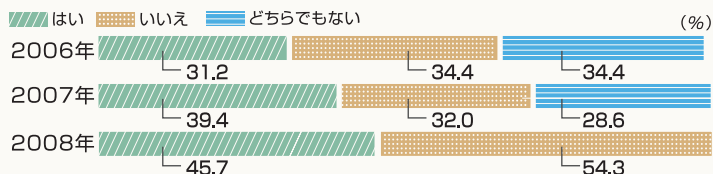
(1) なんでも相談

相談項目	会社窓口		組合窓口	合計
	綾部	大阪		
職場の人間関係	1	20	2	23
雇用リスク	2	7	—	9
セクシュアル・ハラスメント	2	3	—	5
メンタルヘルス	—	3	—	3
諸制度について	—	5	1	6
パワー・ハラスメント	—	2	—	2
その他	—	5	—	5
合計	5	45	3	53

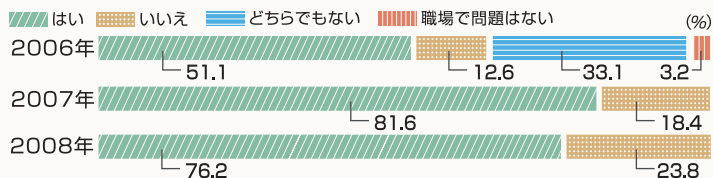
P.16

DATA CSRアンケート結果:経年比較

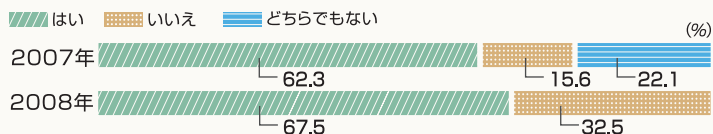
●職場は何でも言い合え、風通しが良い



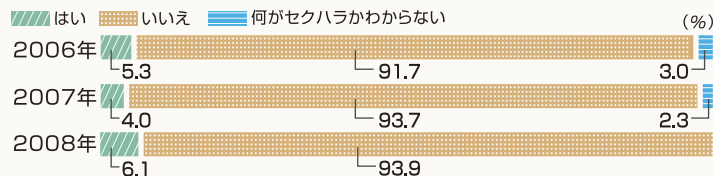
●職場で問題があったときは上司にすぐ報告している



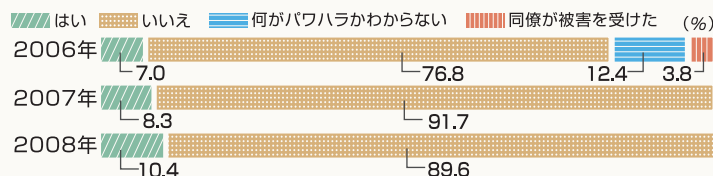
●わたしは職場で不正行為が行われていると思ったら、率直に意見する



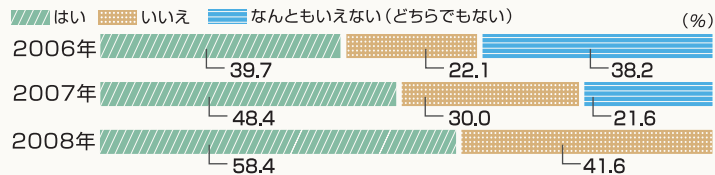
●過去1年でセクシュアル・ハラスメント被害を受けたことがある



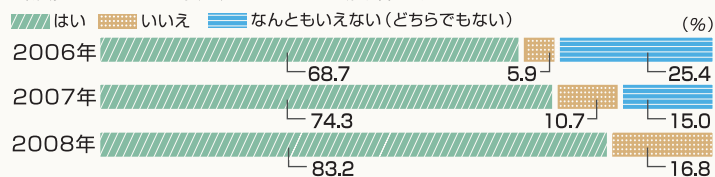
●過去1年でパワー・ハラスメントの被害を受けた



●直属の上司は仕事がうまくいったときや特別に努力したときになんらかの言葉をかけてくれる



●職場のメンバーは必要に応じ、お互いに助け合っている



P.21

DATA グンゼラブアース倶楽部 支援先一覧

支援団体	
会員登録	NPO法人 ヒマラヤ保全協会 http://www.ihc-japan.org/
	NPO法人 こども環境活動支援協会 http://www.leaf.or.jp/
	病気と子どもネット・京都 http://www.npo-net.or.jp/kodomonet/
	NPO法人 ロシナンテス http://www.rocinantes.org/
	NPO法人 加古川に桜を1万本植える会 http://www.kakogawasakura.net/index.html
アンケート結果より反映	エコネットワーク津山 http://www3.tvt.ne.jp/~econet/
	綾部市環境市民会議 http://www.ayabe-eco.net/
	NPO法人 緑の地球ネットワーク http://homepage3.nifty.com/gentree/
	NPO法人 びわこ豊稷の郷 http://www.lake-biwa.net/akanoi/
	NPO法人 スペシャルオリンピックス日本 http://www.son.or.jp/
	NPO法人 日本クリニックダウン協会 http://www.clinicdowns.jp/
	(財)がんの子供を守る会 http://www.ccaj-found.or.jp/
	NPO法人 日本補助犬協会 http://www.hojyoken.com/
	NPO法人 国境なき医師団日本
	NPO法人 国境なき子どもたち http://www.knk.or.jp/japan/knk/knk.htm
	セーブ・ザ・チルドレン http://www.savechildren.or.jp/
	NPO法人 白血病研究基金を育てる会 http://www.flrf.gr.jp/
	NPO法人 NPO人権センター http://www.geocities.jp/humanrights1998/index.html
	あしなが育英会 あしながレインボーハウス http://www.ashinaga.org/index.php
	NPO法人 国際連合世界食糧計画WFP協会 http://www.wfp.org/

P.24

DATA 1 休業をともなう労働災害・交通災害発生状況

	労働災害	交通災害
2007年3月31日現在	8	0
2008年3月31日現在	7	3
2009年3月31日現在	11	5

DATA 2 「心の電話相談室」における相談実績

	電話相談	心の相談
2007年3月31日現在	42件	4件
2008年3月31日現在	30件	8件
2009年3月31日現在	28件	1件

P.03

※1 三つの驍

●あいさつをする

あいさつは、相手の人格を認め尊重することです。
あいさつは思いやりの心であり、感謝の気持ちをあらわします。
あいさつは、相手と心を通わせ、よりよい人間関係を築く第一歩です。
あたたかい言葉と笑顔は、心をなごませ、喜びを感じさせます。

●はきものをそろえる

そろっていることは、美しいと感じる心です。
そろえるとは、小さなこともおそろにしない誠実さです。
そろえてあるはきものははきやすい。
先々のことを考える気配りです。
乱れを正すことは、気持ちを引き締め、自らを律する心がけです。

●そうじをする

そうじをすることは、正しさ、美しさ、すがすがしさを愛することです。
そうじをすることは、働くことの楽しさ、仕事を愛する心を養います。
そうじをすることは、物事のけじめをつけることです。
そうじをすることによって、人にここちよさと喜びを与えます。

P.04

※1 人材

ゲンゼでは、人材＝財産であると考え、社内では「人材」を用いています。

P.16

※1 カーボンフットプリント

原料調達から廃棄までの製品のライフサイクルを通して、CO₂排出量を「見える化」すること。直訳：「炭素の足跡」

※2 カーボンオフセット

CO₂などの温室効果ガスの排出量のうち、どうしても削減できない量の全部または一部を植林事業やグリーンエネルギー事業プロジェクトなどに投資することで相殺すること。

P.17

※1 CRM (Customer Relationship Management)

情報システムを活用し、消費者の生の声を長期的、継続的に事業活動に活かすための活動のこと。

P.19

※1 サプライヤー

サプライヤーとは、製品、原材料の調達先を指す。

※2 サプライヤー行動規範

- 国連グローバルコンパクト、ILO条約、経団連企業行動憲章を参照。
- ゲンゼおよびゲンゼグループの国内外の関係会社およびサプライヤー各位に適用。
- ゲンゼHP URL: <http://www.gunze.co.jp/CSR/supplier/supplier.html>

P.21

※1 グンゼラブアース倶楽部

ゲンゼ110周年記念の社会貢献事業として2006年4月に発足。会員から募った寄付金と会社のマッチングギフトシステムにより、会員が選んだNPO団体等への寄付や、協働事業を通じて社会に貢献している。

※2 BOOKMAGIC

古本を回収し、アフガニスタンの子どもたちの学校建設のための支援を行う活動。

P.23

※1 3つの「SHINKA」

ゲンゼの中期経営計画「SHINKA 3S」(2008年～2010年)
新しい商品・技術や市場・顧客の創造を目指す「新化」、何故を追求しながら技術向上や取引先との取り組みを強化するための「深化」、環境変化に迅速に対応するために自らの改革に挑戦する「進化」の3つのSHINKAと、Solution、Speed、Satisfactionの3つのSをキーワードにゲンゼグループの「真価」向上に取り組んでいる。

※2 人材

左記P.04の※1をご参照ください。

P.24

※1 安全衛生方針:主な活動項目

- ・安全衛生諸法令の順守および必要な自主規程の制定
- ・計画的、継続的な安全衛生管理活動の推進
- ・潜在的な危険の抽出と改善の推進
- ・メンタルヘルス対策、生活習慣病対策の推進
- ・大規模自然災害対策の推進

P.25

※1 環境に優れた製品

環境への負荷を軽減する製品・サービス及びその事業活動全般を言う。

※2 PRTR (Pollutant Release and Transfer Register)

化学物質の排出移動量登録制度と訳され、化学物質の排出量を把握、集計し、公表する仕組み。

P.27

※1 VOC (Volatile Organic Compounds)

揮発性がある有機化合物の総称で、大気汚染の原因物質のひとつ。

P.28

※1 コジェネ

コージェネレーションシステムのこと。Co(共同)のエネルギーをGeneration(発生)させるシステム。発電時に原動機から発生する排熱を回収して、冷暖房や給湯、蒸気などの用途に有効利用することで省エネを可能にし、CO₂排出量の削減を実現。

P.29

※1 低公害車

- ☆:NOx、HCを25%以上低減
- ☆☆:NOx、HCを50%低減
- ☆☆☆:NOx、HCを75%以上低減
- ・基準値:2000年排出ガス規制値

※2 CO、NOx、HC

CO (Carbon Monoxide):一酸化炭素
NOx (Nitrogen Oxides):窒素酸化物
HC (Hydrocarbon):炭化水素
大気汚染物質のひとつ。自動車NOx・PM法が施行。
PM (Particulate Matter):粒子状物質

※3 VOC

上記P.27の※1をご参照ください。

※4 コーティング機

フィルムの表面に塗料または粘着剤等の液相を塗布するための装置。

P.30

※1 SOx、NOx

SOx (Sulfur Oxides):硫黄酸化物
NOx (Nitrogen Oxides):窒素酸化物
大気汚染物質や酸性雨の原因のひとつ。

※2 汚染賦課金

燃料に使用している重油から排出される硫黄酸化物(SOx)の量に比例して支払うもので、公害健康被害者の救済に使用される。

※3 汚泥

廃水処理(活性汚泥・凝集沈殿等)後に排出される泥状の廃棄物。

※4 環境浄化微生物「えひめ」

愛媛県工業技術開発センターで開発された環境浄化微生物。
イースト菌、乳酸菌、納豆菌を、糖蜜で発酵培養した液体。

P.31

※1 BOD (Biochemical Oxygen Demand)

生物化学的酸素要求量
微生物が水中の有機物を酸化分解する際に使用する酸素の量。主に河川の汚濁指標として使用。

※2 COD (Chemical Oxygen Demand)

化学的酸素要求量
水中の汚濁物質が化学的に酸化するときに必要な酸素の量。
主に海域や湖沼の汚濁指標として使用。

※3 SS (Suspended Solids)

浮遊物質
水中に浮遊している物質の量(mg/l)。水質指標のひとつ。

※4 着色度

ゲンゼ独自の指標。処理水を水道水で希釈して30cmの透視度計に入れ、水道水と比較して同じように見えたときの希釈倍率。数字が小さいほど、色が薄いことを示す。

※5 透視度

人が目視で確認できる透明度(水中での視認距離)で、cmで表示。

P.32

※1 PRTR

左記P.25の※2をご参照ください。

※2 低濃度PCB混入の可能性がある機器

1989年以前に製造された絶縁油を使用している機器は微量のPCBが混入している可能性があるため、調査が義務づけられている。

P.33

※1 SRI (Socially Responsible Investment)

社会的責任投資

※2 FTSE4Good インデックス

英国の金融新聞社であるFinancial Times社とロンドン証券取引所との共同出資により設立されたFTSE社が発表しているSRI指数。



[表紙の言葉]

空を見上げるとそこにはあたり前のように雲があります。わたしたちが喜んでいるこの地球環境で、これまであたり前だと思っていたことがあたり前でなくなりつつあります。

1本の糸でつながった、地球と多種多様な命。わたしたちは持続可能な社会の実現に向け、事業活動を通じた社会貢献に努めます。

GUNZE

グンゼ株式会社

大阪本社 〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目8番17号大阪第一生命ビル

お問い合わせ先：コーポレートコミュニケーション部 CSR推進室

TEL.06-6348-4817 FAX.06-6348-4814

URL：<http://www.gunze.co.jp>

2009年6月発行